

— 農学部

Faculty of Agriculture

P58

— 工学部

Faculty of Engineering

P54

— 薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

P50

— 医学部

Faculty of Medicine

P42

— 理学部

Faculty of Science

P38

— 経済学部

Faculty of Economics

P34

— 法学部

Faculty of Law

P30

— 教育学部

Faculty of Education

P26

— 文学部

Faculty of Letters

P22

— 総合人間学部

Faculty of Integrated Human Studies

P18

Faculties

学部紹介

京都大学の10の学部紹介について

学部の特徴、教育カリキュラム、学ぶ事ができる科目などについて述べられています。
また、各学部の在学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。
みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。

新たな「人間の学」をめざして

総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず、限らない好奇心をもつことのできる学生、学を究めるためにはいかなる労苦をもいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の喜びを感じることできる学生、本学部はそういう学生が門をたたたくことを望んでいます。

総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎えた、京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここでの研究と教育が、自然と調和し

た人間の全体的形成を目標とするからです。本学部では、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てる、さまざまな学問を学ぶことができます。人間と、人間をとりまく世界を、総合的に捉えること、これが総合人間学部にとえられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性を求められることができるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能です。京都大学の自由の学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供することを、われわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究所(大学院)に直結する学部として構成されていま

す。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。

120名の入学生は、最初の1年間はどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らが主専攻とする学系を選択します。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。



▲総合人間学部新入生歓迎合宿の様子

総合人間学部の教育

●5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。人間をめぐる現代の複雑な状況は、人間について蓄積されてきたこれまでの叡智をふまえ、人間についての根源的、総合的理解を緊急に進めることを、われわれに求めています。この要求に応えるため、思想、社会、文化といった多様な観点から、人間の総合的な把握がなされなければなりません。こうした観点から現代の人間の在り方を系統的に学ぶことにより、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。さらに、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急となっています。脳の機能の探究から、人間の認知、行動発現、言語機能の探究、さらにはその基礎をなす情報科学や数理学にいたる広範な領域を深く学ぶために、「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋ならびにその固有の文明を、多様かつ複合的な視点から捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本の在り方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって新たな国際的な文明の理念を構築するため、「国際文明学系」が設置されています。また世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するため、「文化環境学系」が設置されています。

自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理学、物質



▲総合人間学部棟

科学、生物科学、地球科学的手法によって探究し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するため、「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学系が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

●専攻の決定

「文系」、「理系」という入学試験の形態にかかわらず、自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属します。

●4年一貫教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目とを4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムが実施されます。大学院「人間・環境学研究所」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

●副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほか、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野でも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員等とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

●大学院「人間・環境学研究所」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究所」に進学しています。また、本学の他の研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究所」には、次の3専攻が設けられています。

共生人間学専攻

人間は、個体であると同時に共同体をなす共生的存在です。本専攻は、人間がもつ基本的諸機能の解明を通して、共生的存在としての人間の在り方を解明するとともに、それに由来する諸問題の解決を可能にする学、すなわち「共生人間学」を目指します。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

共生文明学専攻

文明間の対立が深刻化する今日、これを回避するための文明間の対話がいまほど強く求められている時代はありません。本専攻は、このような地球の視点と未来への展望のもとに、文明相互の共生を可能にする学、すなわち「共生文明学」を目指します。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

関連環境学専攻

人間の未来は、自然と人間の調和的共生を図るべく、いかにして科学技術と産業とを導いていくにかかっています。本専攻は、この調和的共生を可能にするための新しい科学技術と社会システムとを探索する学、すなわち「関連環境学」を目指します。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質関連論講座の4講座を設置しています。





総合人間学部のホームページ <http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 総合人間学部教務掛 Tel.075-753-7875

▲授業風景：中嶋節子教授「環境構成論Ⅳ」

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理学的解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的な研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学の構築を目指します。

人間形成論、社会行動論、文化社会論、人間存在論、創造行為論、文芸表象論



▲ホッティッチェリ『リベラル・アーツに導かれる若者』
背景は宇治分校正門(昭和31年)

認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をとおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって表現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の包括的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知・行動科学、数理情報論、言語科学、外国語教育論

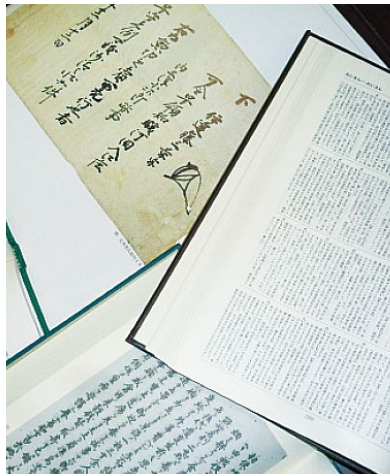


▲MRIを用いた実験風景

国際文明学系

社会科学・人文科学の諸分野が、「タコツボ化」して柔軟さや他分野との連携を失い、現代社会が直面する深刻な諸問題の解決に十分な対処ができなくなったと指摘されるようになりました。それを克服すべく、本学系において学生諸君は、社会科学系諸分野、日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する諸分野から、主専攻を選び、その研究に従事するとともに、関連する諸学問を領域横断的に学ぶことになります。これを通して、真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ者が体得する、高度で幅広い教養(リベラルアーツ)と、柔軟な思考に裏付けられた専門知の習得を目指します。「何をどう学ぶか」を自分で設計したいと願う意欲的で主体的な学生を期待します。

社会相関論、歴史文化社会論



文化環境学系

本学系では近代文明のグローバル化が進展する現代においてその基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な人間活動や居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追及します。また各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を種々の記憶にも留意しつつ複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明・文化や環境に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明・文化はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文明・文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

比較文明論、文化・地域環境論



▲アフリカでのフィールドワーク

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球、さらには宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを旨とした学系です。物理科学、化学・物質科学、生物科学、地球科学で構成されています。それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、新たな知の創造をめざします。

物理科学、化学・物質科学、生物科学、地球科学



▲総合フィールド演習(伊勢湾底棲生物調査)



卒業後の進路

進学：約4割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。

就職：就職先は官公庁や教育機関、マスコミやIT関係といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活躍しています。

就職先の例

住友林業(株) / (株)三菱東京UFJ銀行 / (株)ワークスアプリケーションズ / 伊藤忠商事(株) / トヨタ自動車(株) / 京都府警察 / 野村證券(株) / 第一生命保険(株) / (株)光文社 / パナソニック(株) / (株)プリンスホテル / 神戸市役所 / イオンモール(株) / 西日本旅客鉄道(株) / (株)エイ出版社 / 農林中央金庫 / 三井不動産(株)

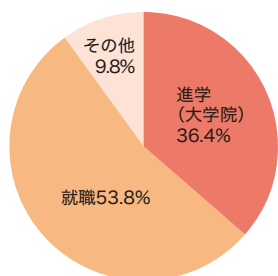
総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、下記の種類、教科について課程認定を受けています。教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の学芸員や図書館司書の資格も他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語
高等学校一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2002年 基礎科学科卒業
京都大学大学院
人間・環境学研究科 勤務(准教授)
(国立高等学校(東京都)出身)

柴田 悠 さん

多様な人々とコミュニケーションできる力を

私は、日本の社会保障をよりよいものにするために、実証研究と政策提言を行っています。NHKスペシャルなどのテレビ番組で呼ばれて提言したり、与野党の機関誌や勉強会で提言することもあります。

社会保障を考えるには、人間のあらゆる側面を考慮に入れなければならない。つまり、多角的な人間理解が必要なのです。私にとっては、総人で学んだ哲学・心理学・社会学・人類学・脳科学などの多様な学問が、いまの活動のベースになっています。

総人では、他の学部以上に、人間についての多角的な見方を深めることができます。多角的な見方ができてこそ、多様な人々とのコミュニケーションや合意形成を深めることができます。そのことは、私のようにメディアや政治で活動する場合だけでなく、ビジネスや行政で活動する場合にも、決定的に役立つでしょう。



卒業生メッセージ

2013年国際文明学系卒業
国土交通省 勤務(航空管制官)

名越 恵 さん

自由さの塊

総合人間学部は、人にしる専門にしる、本当に「自由」な学部です。1番の魅力は、文系・理系の枠にとらわれずに幅広い分野を学べる。高校生時代、大学であれも学びたいこれも学びたいと、一つに絞り込めずにいた私にとって、ここしかないと思いつきました。大学では、多分野に渡るたくさんの興味深い授業が提供されるので、自分の興味に応じて選択することができ多くのことを学べます。教養から専門知識まで好きなことを好きなときに好きなだけ学び、サークル活動や海外旅行など遊びにも余念なく、充実した4年間を送ることができました。

総合人間学部は、様々な方面に興味を持つ仲間が集まる学部だけでなく、他学部と比較しても京大の校風である「自由」さがより色濃く出ている学生が多いと思います。個性あふれる友人たちからは、大学生生活だけでなく現在においても多くの刺激をもらっています。



在学生メッセージ

認知情報学系 2 年生
(三田学園高等学校(兵庫県)出身)

川岸 亮平 さん

おもしろそうじん、おこしやす。

学びたいことをすべて学びたい、ジェネラリストになりたい。私が総人ごと総合人間学部を志した理由です。理系、文系という概念が溶かされてあらゆる学問分野を学ぶ機会を与えられること、学ぶことで得た多様な知識をどのように融合して新しいアイデアを創り出すのかを考えられること、まさに大学での学びを実感できる学部です。また、総人のもう一つの魅力はその人間関係です。繋がり深い夕夕、ヨコの関係の中で多方面への興味関心を刺激され、教授と学問的な議論を真剣にすることができる、このような環境で過ごせる大学生活は幸せで溢れています。知的好奇心を満たせる総人の魅力をこの欄で伝えきること、それがどれほど難しいことか、ぜひ総人人生になって感じてください。百人百色、おもしろ総人、おこしやす。



在学生メッセージ

人間科学系 4 年生
(関高等学校(岐阜県)出身)

加藤 悠花 さん

おもしろそうじん、その通り

私、人間が好きなんです。数式で表せない人間って、面白くないですか？そして、楽しく豊かな人生に、人との関わりは不可欠ではないでしょうか？そんな人間について、学術的に学びたくて、実際に面白い人達と出会いたくて、私はこの学部に来ました。

なぜ総人には面白い人が多いのか？多分、能動的人間が多いからだだと思います。この学部はとにかく自由です。求めれば求めるだけ、何でもできます。言い換えれば「何かしらを考えて行動したい」人の集まりです。そりゃ面白くなる。

そんな中で、多くの刺激を受け、新たな価値観、世界観を得て、夢を広げることができます。私はゼミで心理学を学び、特に人と関わる集団に常身を置き、3年間...とにかくワクワクしていました。

好きなものを見つけたところからでもいい。この学部で日々ワクワクしてみませんか？

根源的な人間理解への多元的なアプローチ

文学部が望む学生像

1. 京都大学文学部は、哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる諸問題を学び考え、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、新たな知的価値を創出することをめざす学生を求めています。
2. 入学者選抜においては、以下の点が問われます。
 - (1) 総合的な基礎学力をもっていること。
 - (2) 過去から、現在に至り、さらに未来にまで伸びる人間の営みに関して、深い関心をもっていること。
 - (3) 高度の文章読解力、および論理的かつ柔軟で、創造性豊かな思考力をもっていること。

文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在文学部には、哲学基礎文化学、東洋文化学、西洋文化学、歴史基礎文化学、行動・環境文化学、基礎現代文化学の6つの系と、その中に32(大学院では31)の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねるキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的に日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の系と専修も実に多種多様です。それぞれの専修は、

独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた文学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆すべき位置を占めています。100年を超える歴史を通して培われた文学部の勉学環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これから入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。

文学部の教育

●国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。日本で学んだ研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めねばなりません。文学部では学部生の段階から、留学や外国人研究者との交流、さらには学際的国際シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

●文学部の4年間

文学部の学生が1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目です。学年が進むにつれて勉強する分野が限定されがちですので、1・2回生の間はできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にプラスとなるでしょう。また、この時期は所属専修が決まっていらないとはいえ、ある程度将来分属する専修を念頭にそれぞれに必要なとされる外国語を勉強しておくことが望まれます。

2年生になるときは、3年生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。各専修が開講している入門講座や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定するのに備えます。もちろん3年生になる際に、他の系の専修を選ぶこともできます。2年生で履修する文学部英語や各言語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3年生では本格的な専門教育が始まります。各専修に分属して、講義の他、演習や特殊講義と言った専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあり

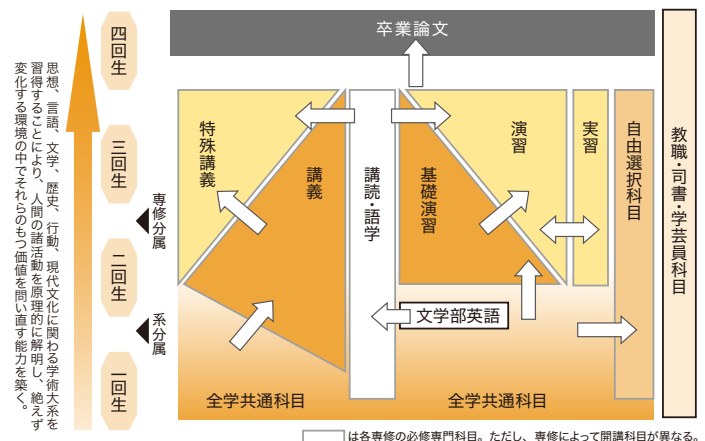
ます。最初は圧倒されるとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究が身近に感じられるようになるでしょう。他学部以上に文献講読の形式を取る授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習(フィールドワーク)を課しているところもあります。

4年生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決

定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、ときには苦しいかも知れませんが、一つのを完成する重要さを学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進んで研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

文学部 人文学科 コースツリー

- 哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる基礎的学識、専門分野についての深い理解力を持ち、卒業論文の作成を通して培われる問題探究能力、分析能力、表現能力を身につける。
- 哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる課題に関して、問題発見能力と問題解決能力を具え、創造的に取り組むことができる。
- 人文学の意義と重要性を理解し、高い倫理性を持って、その展開に寄与する行動ができる。
- 自由で批判的な精神と良識を具え、人類が直面する課題を直視し、問題解決に積極的に寄与することができる。



Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho) at the top of the page, including characters like '行' and '記'.

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho) on the right page, including characters like '行' and '記'.

Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho) on the left page, including characters like '行' and '記'.



文学部のホームページ <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 文学部第一教務掛 Tel.075-753-2709

▲近衛家旧蔵『源氏物語』

学系紹介

哲学基礎文化学系

哲学基礎文化学系は、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たらしめる人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。たとえば、「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。「人間にとって宗教とは何か」、「美とは、芸術とは何か」。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

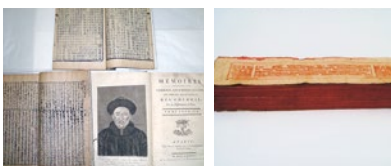


▲左：西田幾多郎
右：アウグスティヌス『告白』の冒頭部分。
1491年シュトラスブルグで刊行された最初の印刷本（インクンナブラ）。文学研究科蔵

東洋文化学系

東洋文化学系では、日本・中国・インド・チベット等東アジア諸地域の文学・思想・宗教・言語などを中心に、広く時代を超えた研究を行っています。専門分野によっては、もう一歩踏み込んで科学や芸術、さらに現代のサブカルチャーまで足を踏み入れることになるかも知れません。基礎となるのは、なによりも文献資料の原典をきちんと読むこと。原文でしかわからない意味や美しさを理解するには、しっかりとした語学力が不可欠です。研究を進展させるには、英・仏・独を始めとする外国語を駆使する必要も出てくるでしょう。

私たちは東洋に身を置き、東洋で生まれた作品群と日々向き合っています。しかしその過程で、しばしば外の世界から向けられた視線や、外の世界に根を下ろして新たな伝統を育む「東洋」と遭遇することになります。わかったつもりでいたことが姿を変えて再度眼前に現れるのです。そんな時、私たちは、人間が創造する文化の普遍性と独自性に思い至ります。東洋と世界はどのように関わるのか、歴史的伝統と現実はどうつながっているのか、文学や芸術の想像力はどんな世界を作るのか。正確な専門的知識、分野を超えた広い視界、その両者をあわせめて考えてみてください。



▲左：中国語学中国文学研究室所蔵の貴重資料
右：アルゲ版チベット大蔵経『般若経』

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず十分な語学力を養うことが大切です。ただ本学系での研究は語学の習得にとどまらず、そこから創造的な読解へと進んでいくことが共通の特徴です。また文学や言語文化について考察したい人、文学理論や批評に関心のある人にとっても最適の場所です。図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、意欲のある人にとって無尽蔵の知識の宝庫となるでしょう。本学系は長い学問的伝統を誇り、多くの優れた研究者を養成してきました。他方、卒業後に就職する人も大勢います。本学系で習得できる能力は語学力に限らず、幅広い理解力、読解力、コミュニケーション能力など社会生活の基本となるものであり、卒業生は報道、出版、流通、官公庁など多方面で活躍しています。



▲左：授業風景（スラブ語学スラブ文学）
右：研究会風景（ドイツ語学ドイツ文学）

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。文学研究科図書館だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所など近隣の施設にも豊富な文献や資料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあるといえるでしょう。

本学系は、京都大学文学部（当時は京都帝国大学文科大学）創設以来、日本の歴史学・考古学の発展を牽引してきました。現在、日本国内はもちろんのこと、国際的にも研究と教育の拠点として、ますます重要な役割を果たしています。



▲左：文学部陳列館
右：織田信長朱印状

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の動きを実験を通して研究しています。ヒトや動物の知覚・認知、思考、記憶、発達、社会性など基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。

言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会の構造や変化、人々の関係、文化などについて研究します。地域、家族、ジェンダー、メディア、福祉、環境など様々なトピックを扱い、社会調査にも力を入れています。

地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域現象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。



▲左：台の上にヤシの実を置いて石で叩き割る
フサオマキサル（サンパウロ市・チエテ国立公園）
右：計量分析の授業

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなり、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野をも視野に入れ、現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史専修は、自然科学という人間の営みを哲学的、史的に研究しています。

情報・史料学専修は、人文学と情報学が融合した新しい領域を開拓しています。

二十世紀学専修は、20世紀の大衆文化とメディアを研究し、映像・画像研究やメディア論やジェンダー論と多様な領域におよんでいます。

現代史学専修では、現代史は、世界史であるという観点から20世紀の歴史を研究しています。



▲左：文献研究用ツールSMART-GSで、手書きドイツ語日記から「幾何」という単語を探す。
右：寄託された大伴昌司資料の展覧会案内ビラ

卒業後の進路

ここ数年は、就職者が55～60%程度、大学院進学者が30%前後、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまで、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では情報通信業、金融業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。

就職先の例

(株)みずほFG / (株)コーエーテクモ /
JR西日本(株) / 教員 / 国家・地方公務員 /
(株)西松屋 / 三井住友カード(株) / 三井物産(株) /
日本生命(株) / (株)大和書房 / (株)デンソー /
(株)オースビー 等

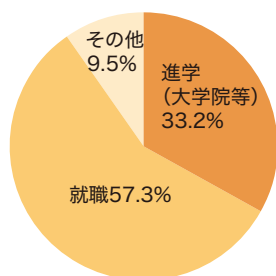
文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後1年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

文学部で取得できる 教育職員免許の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語・社会・英語・仏語・ 中国語・宗教
高等学校一種	国語・地理歴史・公民・英語・ 仏語・中国語・宗教

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2012年 英語学英文学専修卒業
2014年 英語学英文学専修修士課程修了
英語学英文学専修 博士課程3回生
(国際基督教大学高等学校(東京都)出身)

宮崎 真帆 さん

わからない、だからこそ

私は英語学英文学専修に所属していますが、能の英訳に興味を持ったことをきっかけに、今では能のものや東西の比較演劇などに研究の対象を拡げています。このような経緯をたどったのも、そもそも能がわからなかったから。大学で学ぶ上で大切なのは、わからないからこそ、より深く知ろうとする姿勢ではないでしょうか。理解したいという気持ちを出発点として、簡単に答えの出ない問題を自らの頭で考える経験は、思いがけないときに役立ちます。そして幸いにも、京都大学にはそれを可能にしてくれる環境が整っています。伝統を身近に感じられる土地、豊富な資料の数々、そして議論を通じて刺激しあえるような教授陣や友人との出会いが皆さんを待っています。素直な好奇心を持って、少しでも気になった世界には積極的に飛びこんで行ってください。



卒業生メッセージ

2016年 西洋史学専修卒業
国立研究開発法人新エネルギー・
産業技術総合開発機構(NEDO)
(県立浦和高等学校(埼玉県)出身)

片野 竣介 さん

無限の可能性に繋がる学びの場

私が京大文学部で感じたことは、学生の裁量が大きいということです。ああしろ、こうしろ、とはほとんどいわれませんが、自分で考え、行動しないとどうにもなりません。しかし、そのための環境や材料は最高級のもので用意されています。歴史学、心理学、哲学、言語学など、多種多様な分野に即した講義・演習や学生同士の意見交換の場、膨大な蔵書を擁する図書館など、他では得難い高品質な「自由な学びの場」がそこにはあります。また、京都という街も四季折々の顔を見せ、長い歴史を感じさせる独特な雰囲気をもたらしている魅力的な場所です。こうした環境で、自分の知りたいことをとことん追求することは、卒業後に自分が何をして生きていきたいか、という問いの答えにも繋がります。皆さんも、この場所でかけがえのない数年間を過ごしてみませんか？



在学生メッセージ

言語学専修4回生
(西大和学園高等学校(奈良県)出身)

辻井 真太郎 さん

自由に。

「常識を疑う」ということがよく話題になります。誰もが当然だと思っている事柄を懐疑的に捉えることで斬新な発想が可能になるといえます。自由な校風に凛然と憧れて入学した京都大学ですが、最近になり私はその「自由」とはまさにこの「常識を疑う」ことだと気づきました。

私が専攻する言語学は、その対象が普段当たり前に使われる言語であるという点でその典型だと言えます。当たり前を疑う慎重な姿勢がなければ問題意識すら生まれません。先生方を含む諸先輩はそうした観察力や着眼点に長けています。

今でこそ現状打破の王道として語られる常識の再検討ですが、それを伝統的にやってきた京都大学では至る所にその「革新の種」が溢れています。それ故に変わっていて、それ故に面白いのです。受験生の皆さんも、ここで「自由」に学んでみませんか？



在学生メッセージ

情報・史料学専修4回生
(神戸高等学校(兵庫県)出身)

高橋 真耶 さん

自由を楽しむ

私は文学部で勉強をしたくて、受験先を考えていました。中でも京都大学が一番自由に勉強できると思い、入学しました。私の所属する情報・史料学専修では、文学部という枠にとらわれず幅広い研究を行っています。今、私は将来の人類の宇宙での暮らしについて興味があり、研究をしたいと思っています。こんなにも枠にとらわれずに自由な勉強ができるのは、京都大学文学部ならではの魅力です。

京都大学の大きな魅力の一つは、人との出会いの豊かさだと思います。学部で、サークルで、本当に優秀で様々な個性を持つ人との出会い、揉まれながら過ごしていくこととなります。京都大学では今まで想像したこともないほどの世界が広がると感じます。受験生の皆さん、悔いのないよう受験勉強を頑張ってください。そして、京大生活を十分に謳歌して下さい。

心・人間・社会を探究し、未来の教育を創造する

教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組みなければなりません。

そのため、教育学部では、心と人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思

考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部への誘い

2015年、教育学部は創立66周年を迎えました。教育学部はこの66年、戦後日本の教育にかかわる教育学と心理学の研究・教育をリードしてきました。

本学の教育学部は、教員養成を主たる目的とした学部ではありません。現代の教育にかかわる諸問題を学問的に探究し、よりよき社会実現のための知と技法を開発し、その習得をめざす学部です。現代の教育の諸問題は、複雑な要因が多層に折り重なっています。

その諸問題に正面から向き合い、その解明のために、心や人間、社会それ自体に関するさまざまな学問とその方法を学ばなければなりません。人間を深く探究する人文科学、社会の仕組みや動きを解明する社会科学、人間の心に関する諸科学など、教育学部には、多様な学問を学ぶことができるよう、3つの系が用意されています。その意味で、教育学部は「教育」という現実的テーマを共有する「小さな総合学部」にほかなりません。

教育学部では、理論を実践に展開することと、そのためのフィールドを重視しています。学校に限らず、生涯を通した人間の生成と変容を視野にいれ、21世紀に求められる新しい教育学と心理学の創出をめざし実績を上げています。少人数教育の徹底と、学問の多様さと、まとまりのよい一体感、これが教育学部の特徴です。

教育は未来を創る営みです。教育学部は未来にかかわる学問を学ぶ場です。変化の激しい現代は未来が見通しにくい時代。その分、教育にかかわる諸学問への期待は、ますます大きくなり、それが果たす役割はますます重要なものになっているのです。



▲教育学部学生ラウンジ

教育学部の教育

●学部教育の方針

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓蒙するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

●学部4年間のカリキュラム概要

教育学部は、1学科(教育科学科)3大学科(系)で教育課程編成を行っています。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階

では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。それぞれの大学科目(系)における教育内容は、次のページの「系の紹介」とおりです。

教育学部では、入学者選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

1年生には専門科目の必修科目として「教育研究入門」、推奨科目として「情報学」を開講しています。また、教育学部教員が、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及びILAS(少人数)セミ

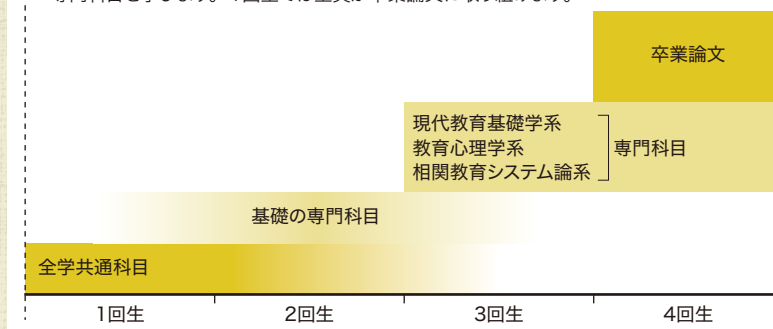
ナー等の教養科目を開講しています。入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。

2年次学生に対しては、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。

なお、平成19年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試を実施しています。さらに、平成28年度からは、特色入試を実施しています。

入学から卒業までの流れ

1-2回生で全学共通科目と基礎の専門科目を学び、3-4回生では3つの系に分かれて専門科目を学びます。4回生では全員が卒業論文に取り組みます。



▲「教育研究入門」授業風景



教育学部のホームページ <https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 教育学部教務掛 Tel.075-753-3010

▲授業風景：服部准教授「教育法学」

系の紹介

現代教育基礎学系

学校のあり方に関心がある人、カリキュラムや授業・評価の開発をめざす人、胎児期からの心の発達や障害に関心をもつ人、教育の問題を歴史的に研究する人、哲学的に深く考える人、そうした人たちが学ぶ系です。

教育哲学・教育史学

何のために教育は必要か、どんな学校が望ましいかなど、教育に潜む様々な問題を哲学や歴史学の観点から分析します。学校教育制度や教育に対する考え方の歴史的成立過程、また時代による変遷などについて探究し、新たな学習や教育の姿を提示するための知識や方法論が身につきます。

教育方法学・発達科学

カリキュラム・授業・評価に関する理論と実践の蓄積に学び、人間の心身の発達を文理融合領域である発達科学にもとづき解明することで、真に適切で有効な教育方法を提案することをめざしています。フィールドワークに重きを置いた活動が特徴の一つです。

教育人間学・臨床教育学

芸術、身体、言語など人間学の多様なテーマについて、主として思想研究の方法で研究します。それを通して、言葉に対する感受性を育て、フィールドの中で考える力を身につけることをめざしています。



▲小学校でのフィールドワーク

教育心理学系

教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本として、教育・認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組まれ、他学部等の心理学系教室・教員とも連携して活発な教育・研究活動がおこなわれています。

教育・認知心理学

記憶、言語、推論、意思決定、知能、他者理解、共感、社会的認知といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに、それらの発達の特徴、教授-学習法、動機づけ、メディアやコンピュータを活用した教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざしています。また、心理実験・調査やデータ解析等の方法を身につけ、心理学の研究を進めることができますようにします。

臨床心理学

心に関する対人支援をおこなう専門的知識と技能を身につけるため、自己理解を深めつつ、心理面接や遊戯療法などの心理療法、心理査定技法や調査の方法、描画や箱庭などのイメージ表現の理解の仕方等を学びます。こうした専門的な知識と技能は、卒業後に社会で活かされるばかりでなく、修士課程に進学し臨床心理士の資格を取得することにつながります。



▲脳機能を測定する心理学実験

関連教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。

関連教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探究することを目的としています。

学部教育においては、これからの社会と人間に求められる重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学

人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学的観点から考察する力を養います。

生涯教育学

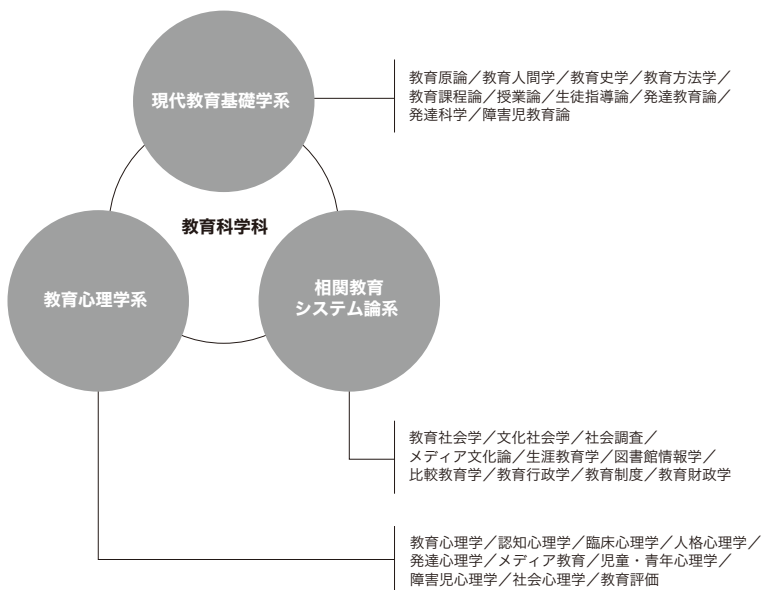
学校教育を超えて、広く人間社会における教育と文化を分析する視点と方法を学びます。具体的には生涯教育、図書館情報、メディア文化の諸問題を考え、生涯教育では学習と実践を重視します。

比較教育学・教育政策学

各国の教育制度、政策、実践、理論などを理解する国際的な視野と考え方を学ぶとともに、政策科学的な観点から教育の行財政制度と具体的な政策立案について学びます。



▲「教育資源配分論」授業風景



▲教育学部サテライト演習室



卒業後の進路

教育学部の平成27年度の卒業生は71名で、そのうち42名(約59%)が就職しています。

そのなかには、教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数名います。

また21名(約30%)が大学院に進学しています。残り8名(約11%)がその他進学・就職準備中となっています。

就職先の例

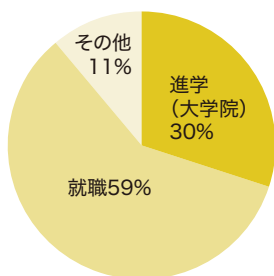
埼玉県立高等学校教員／京都市立中学校教員／
長野県公立中学校非常勤教員／文部科学省／
法務省／京都府庁／京都市／奈良県／信金中央金庫／
武蔵コーポレーション(株)／東レ(株)／
三井物産(株)／帝人(株)／川崎重工(株)／
日本生命保険相互会社／新潮社／日本放送協会／
(株)フジテレビジョン／コニカミノルタ(株)／
(株)オリエンタルランド／東京海上日動火災保険(株)／
中部電力(株)／パナソニック(株)／
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)など

教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭1種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2016年 現代教育基礎学系卒業
京都市立中学校教諭
(六甲高等学校(兵庫県)出身)

藤井 亮 さん

教育哲学との出会い

人生二度目となる大学への入学—教育学部への三年次編入学は、就職後に芽生えた教育という世界への関心によるものでした。入学後に得た二年間は、主に教育哲学の領域において「教育とは何なるものか」という問いを追い求めていたように思います。ゼミでは関心の対象が大きく異なる受講生が集まり、しかしながら「教育」の二文字は共通の関心事として持っていたことで、多角的な議論が展開され、いつも濃密で刺激的な思考の時間を過ごすことができました。そして、身近に展開されている多くの事象が、実は「教育」とつながっているのだという気づきを得たのです。今後、教員としての人生を志望する私にとっては、大変重要な気づきであったと確信しています。現場での実践の中で、思考し続けていくこと、それが私にとっての課題なのだろうと考えています。



卒業生メッセージ

2016年 教育学研究科 臨床教育学専攻
臨床心理実践学講座修了
臨床心理士
(国際高等学校(東京都)出身)

西尾 ゆう子 さん

仲間に支えられて

教育学部で得た仲間との絆に支えられて今の私があるとしみじみ思います。私は教育心理学系を卒業後、大学院で臨床心理学を学びました。大学院では先生方と仲間に恵まれ本当に充実した日々を送ることができましたが、人が抱える悩みや専門家に専門家に向き合うかを学ぶ日々は戸惑うことも多くありました。そんな時、学部時代の友達と会い、他愛も無いお喋りをする時間が宝物のようでした。それぞれが社会人として奮闘する話を聞き、私もまた前向きな気持ちになりました。在学中に念願の臨床心理士資格を取得した時や初めて学会発表をした時も、そんな仲間にお祝いしてもらったことを嬉しく思い出します。これから臨床心理士として精進を重ねたいと思いますが、教育学部で出会ったあたたかいつながりに支えられていることが私の力です。



在学生メッセージ

教育心理学系 4 回生
(済美平成中等教育学校(愛媛県)出身)

長谷 雄太 さん

なんでもやってみたい欲張りたちへ

私は高校のころから心理学に興味を持ち、京大の教育学部に入学しました。入学してみても、学生がそれぞれ興味を持っている分野が幅広く、学部自体もその興味に合わせて多種多様なことを学ぶことができる柔軟な学部だなと感じています。さらに幅広いからと言って浅い知識しか得られないというわけではなく、それぞれの分野で高名な先生方に手厚く教えてもらうこともでき、設備環境も充実しているため他では中々できないような体験を数多くすることができます。そして他の学部にはない教育学部のもっとも特徴的な面といえば、一学年60人という少なさゆえの仲の良さです。教育学部では入学してすぐに茶話会や合宿などさまざまな行事があり、自分の同級生と親睦を深めることはもちろん、2回生から4回生さらには院生の先輩とも交流することができます。その仲の良さを活かし、11月のNF(学園祭)では「教育学部祭」として学部全体が一丸となって出店や出し物を行います。このようなイベントもさることながら、普段なにか分からないことなどがあつたときや困ったときには先輩や同級生たちが親身になって手助けしてくれるとてもアットホームな雰囲気学部です。

このように教育学部では多くの温かい支えの中で、のびのびと学問や課外活動に専念することができます。受験勉強はとて大変で、くじけそうになることも多々あるとは思いますが。そんな時は一休みして自分が大学生になったところを想像してみてください。未来へのわくわくが今のやる気によって少しくらい楽になるかもしれません。皆さんが教育学部の仲間として共に充実した学生生活を送る日を心待ちにしています。



在学生メッセージ

相関教育システム論系 4 回生
(四日市高等学校(三重県)出身)

鈴木 友梨奈 さん

「教育」という言葉の懐の深さ

私はもともと、「京都大学に行きたい」の一心で、自分が大学で何をしたいのかは明確に定まらないまま、出願直前まで迷って、教育学部に飛び込んだ人間です。しかし、そんな私にも、教育学部は大きな懐で、満足な学びある大学生生活を与えてくれました。ここでは、ひとくちに「教育」と言っても、学校教育だけでなく、人の一生を通してのあらゆる場での学びを扱うので、1人1人が、自分らしい興味・関心を柔軟に「教育」という大きな枠に当てはめて学問に向き合うことができるのです。スポーツが好きで、地元が好きで、勉強が大好きという人、様々な人が、その人らしい切り口で、教育学部生としての学びを完成させていきます。皆さんも、教育学部で、自分らしい思いを4年間の大学生活にぶつけてみませんか。

制度・組織の設計・運営を指導できる人材を育成する

法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

法学部への誘い

法学部は、明治32年(1899年)に法科大学として創設されました。それ以来、約

36,000名の卒業生を世に送り出しています。創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。創設当初から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

法学部では、特に戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応

して講座数および教員数を拡充してきました。平成4年(1992年)からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、それまで学部に配置されていた講座を大学院に配置し、大学院講座の担当者が学部教育も担当するという組織変更を行いました。平成16年(2004年)には、法曹の養成を目的とした専門職大学院として、法科大学院を設置し、平成18年(2006年)には、経済学研究科と協力して、公共的な役割を担う高度専門職業人の養成を目的とした専門職大学院として、公共政策大学院を設置しました。

法学部は、国家や社会のあり方を見直し、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎え、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。



法学部の教育

●卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学では、夏休みを境として、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しています。スポーツ実習科目を除いて、半期週1回(90分)の科目は2単位、半期週2回の科目は4単位となっています。

卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であるのに対して、専門科目には2単位科目と4単位科目があります。卒業するためには、教養科目を64単位以上、専門科目については演習2単位を含む80単位以上を取得する必要があります。

●第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、全学共通科目と法学部が提供する法学部基礎演習をいいます。全学共通科目は、人文・社会科学科目群(ア)、自然科学科目群(イ)、統合科学科目群(ウ)、外国語科目群(エ)、情報科学科目群(オ)、健康・スポーツ科目群(カ)、少人数教育科目群(キ)、キャリア形成科目群(ク)にわかれています。

卒業するためには、(ア)の科目群および法学部基礎演習から24単位以上、(イ)及び

(ウ)の科目群から6単位以上、(エ)の科目群から24単位以上を取得し、かつ(ア)~(ク)の科目群から合計64単位以上(外国文献講読(法・英)1・II各2単位を含め、E科目(英語関連科目)8単位を含むこと)を取得することが必要となります。

(エ)の科目群は、英語とその他の外国語からなり、英語を8単位以上、その他の外国語のうち1つを16単位以上取得しなければなりません。

教養科目は、原則として、卒業までのどの学年においても履修することができます(法学部基礎演習を除く)、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1年生、2年生のことを2年生と呼びます。

●高学年になるほど専門科目の授業が増える

専門科目は、科目の内容に応じて、履修することができる学年に違いがあります。

まず、1年生のみが受講・受験することができる専門科目として、法学入門I・II、政治学入門I・II、家族と法があります。これらは、いずれも導入的な科目にあたります。

次に、2・3年生のみに配当される科目として、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部などがあります。さらに、2年生・3年生に加えて、4年生も履修することができる科目として、国際法第一部、刑法第二部

と民法第二部などがあります。これらは、主として法体系全体の基本的な部分に相当する科目にあたります。

その他の専門科目は、原則として3・4回生に配当されています。ただし、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2回生も履修することができます。さらに、経済学部の一部の科目も履修することができます。

なお、専門科目には、毎年必ず開講される基本的科目と並んで、新しい法現象・政治現象、企業における法実務などに対応する特別科目も年度ごとに開かれています。

以上のほか、演習(ゼミ)は3・4回生に配当され、半期2単位で、6単位まで履修できます。少人数クラスで周到な予習に基づいた活発な討論が行われています。

●科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成を通じて、1・2回生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として特に3回生以上で行うことを推奨しています。専門科目では、必修科目はありません。このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。ただし、学生に堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる単位数に上限を設けています(キャップ制といえます)。





法学部のホームページ <http://law.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 法学部教務掛 Tel.075-753-3107

専門科目

法学部専門科目

法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、ローマ法、東洋法史、英米法概論、ドイツ法、フランス法、憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、知的財産法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、社会保障法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、刑事学、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、法学入門Ⅰ、法学入門Ⅱ、政治学入門Ⅰ、政治学入門Ⅱ、家族と法、

外国文献研究(英・独・仏)、特別講義(破産法、近代日本のリーダーたち、日本政治思想史、外交史、Introduction to European Law、Japanese Politics from a Comparative Perspective、現代社会と裁判、現代社会と弁護士、アセット・マネジメントの実務と法、生命保険の実務と法、金融法と銀行実務、信託法の理論と実務、国際企業取引の実務と法、租税制度と租税実務)、演習

経済学部開講科目

ミクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅱ、社会経済学Ⅰ、社会経済学Ⅱ、経済政策論、財政学、経済史Ⅰ、経済史Ⅱ、世界経済論、金融論、金融政策、基礎統計学、経済統

計学、会計学Ⅰ、会計学Ⅱ、経済学史、欧米経済史、社会政策論

演習

法理学、法社会学、日本法制史、東洋法史、英米法、ドイツ法、憲法、行政法、税法、国際法、国際機構法、民法、商法、経済法、民事訴訟法、国際取引法、労働法、国際私法、社会保障法、刑法、刑事訴訟法、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学

卒業後の進路

卒業生の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、大学院進学者の約70%は、京都大学をはじめとする全国の法科大学院に進んでいます。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、例年入学者の20~30%が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。

法学部で取得可能な資格

法学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

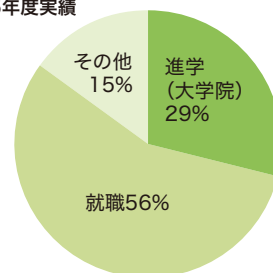
取得できる資格の例

教育職員免許状
(中学校1種社会・高等学校1種公民)

就職先の例

国家・地方公務員/日本政策金融公庫/
(独)国際協力機構(JICA)/日本銀行/
三井住友銀行/三菱東京UFJ銀行/
三井住友信託銀行/第一生命/大和証券/
野村證券/住友商事/大阪ガス/中部電力/
西日本旅客鉄道/阪急電鉄/日本放送協会/
毎日放送/読売新聞社/ソフトバンク/
トヨタ自動車/パナソニック/川崎重工/
三菱重工業/日本たばこ産業/プリチストン/
三菱地所/富士通/日立製作所/大林組/鹿島建設

2015年度実績



法学部4年間の学生生活イメージ

入学

合格発表

新生活に胸をふくらませ、入学準備に奔走。



1年生

入学式

京都大学全学の入学式の後、歴史ある法経第四教室で厳かな雰囲気の中、法学部だけの入学式も。

始業と履修登録

ガイダンスや先輩のアドバイスを参考にしながら、自分の時間割を作る。受講する授業を自分で決めることができるのが高校との大きな違い。1年生ではまだ法学・政治学の専門的な科目はなく、いろいろな分野の素養を幅広く身につけたい。また、語学の授業は法学部のクラス単位で受けることになるため、クラスの親睦の場となる。

クラス発表

8あるクラスで、クラスメートと初顔合わせ。

前期試験

夏休み前の7月に、大学生生活はじめての定期試験がある。

11月祭

クラスやクラブ・サークルで出展。おおきな一体感が生まれる場でもある。

後期試験

あつというまの1年の、ひとつの結果が出る。

2年生

新入生を歓迎する立場に

勉学に、サークルに、アルバイトに、忙しくなってくる。

専門科目が増える

憲法・民法・刑法といった基礎科目が本格的に始動し、やっと法学部らしい勉強が始まる。

専門のサークルに目が向く

法学部サークル連合(略称:法サ連)という法学や政治学に関する活動を専門に行うサークルに入学する人も多くなる。

ゼミ(演習)の登録

3年生からのゼミに関心をもつようになる。ゼミ登録は2回生の後期に行う。この頃から、学問の専攻や将来の進路の可能性などが現実のものとして目の前に広がる。



3年生

専門科目のゼミ

勉学生活の醍醐味は、なんといってもゼミ。議論に興じる輪が、至るところで見られるようになる。

留学により世界的視野を広げる

外国の大学との交流協定により2~3回生で留学する学生も多い。

進路を意識する

インターンシップなどに参加するようになり、就職かロー・スクールか大学院か、進路を意識する。

ロー・スクール入学準備

ロー・スクール志望(法曹志望)を決めた学生は、そろそろ試験の準備を始めなければならない。

就職広報活動開始

企業説明会に出席したりとあわただしくなる。

4年生

それぞれの進路に応じた活動

ロー・スクール志望は自主勉強会などを開いて本格的に試験勉強に取り組む。公務員志望は、試験に向けて勉強。

一般企業志望は情報収集のため多忙な日々。

ロー・スクール適性試験

5、6月にロー・スクールの「適性試験」が実施され、あらかじめ気を引き締めることになる。

省庁回り(公務員)

公務員試験の後は、省庁回りに励む。ここで、自分の志望する省庁を定める大事な機会である。

ロー・スクール最終合格発表

ロー・スクールの合格者が決まる。

最後の試験

就職・進学先が決まった学生は最後の試験に挑み、卒業に向かって離陸準備に入る。

卒業式

4年を振り返りながら、友と涙を流す歓喜の瞬間。

卒業

Message



卒業生メッセージ

2010年 法学部卒業
2012年 法科大学院卒業
2013年 司法試験合格
弁護士(北浜法律事務所・外国法共同事業)
(洛南高等学校(京都府)出身)

太田 慎也 さん

「考え方」を養う大切な場所

私は、現在弁護士3年目であり、毎日、様々な事件に取り組んでいます。しかし、事件処理に当たって明確な答えはなく、日々頭を悩ませる毎日です。では、京大法学部で学んだことは、全く役に立たなかったのかというと、そのようなことは一切ありません。京大では、まず法学の基礎を学ぶことで、法律的な物の考え方を身につけることができましたし、そこで出逢った仲間との議論を通じて、理解を深めることができたと思います。世の中で発生する法律問題は千差万別であり、一つ一つの解決方法を覚えることは到底できません。しかし、京大では、解決に至るまでの「考え方」をハイレベルな仲間とともに学ぶことができます。

受験生の皆さん、京大でのキャンパスライフは最高の思い出と経験になります。是非頑張ってください。



卒業生メッセージ

2016年 法学部卒業
法学研究科法政理論専攻修士課程
(東大寺学園高等学校(奈良県)出身)

井関 竜也 さん

学ぶことに出会い、学ぶことを楽しんで

政治や法。それは本来身近な存在でありながら、自然科学や歴史などに比べ、高校以前には学ぶ機会の少ない世界です。興味はあるけど学びたいことがはっきりしない。私もそうでした。

法学部では、政治や法という領域について、多様な講義が展開されています。その中で、それぞれの学生が自分の学びたいことに出会い、その学びに進んでいきます。最高裁判例の動向を分析する人、自由主義と全体主義を巡る哲学に向きあう人。私が選んだのは、議員の行動について実証的に、時には数学的に分析をする現代政治分析。ゼミでデータや統計ソフトに向き合った時間は、今までで最も「学ぶ」ということを楽しかった時間でした。

広大な政治や法の世界から、一人ひとりが学ぶことに出会い、楽しむことを叶えてくれる。それが自由の学風を誇る、京都大学法学部の魅力です。



在学生メッセージ

法学部4年生
(雙葉高等学校(東京都)出身)

香月 佳奈 さん

充実した環境で過ごす学生生活

やりたいという気持ちさえあれば、色々なことができる。そこが京都大学の大きな魅力のひとつだと思います。学部での勉強のみならず、その枠を超えて幅広い分野に興味を持つ友人たちに囲まれ、様々なことに挑戦してみたいような環境が整っています。留学制度も長期のものから短期のものまで多様なプログラムが用意されています。私自身、3回生の時に交換留学の制度を利用しフランスへ行きました。同じ内容であっても、日本とは違う切り口から行われる授業や、様々な国からきている学生との討論などといった違う文化の中にいるからこそできる多くの経験をすることができました。受験生の皆さんも、京都大学に入学して、充実した学生生活を送って下さい。応援しています。



在学生メッセージ

法学部4年生
(Shanghai American School
(中国・上海)出身)

亀井 万莉奈 さん

京大では、あなたが主役

京都大学の一番の魅力は自由な校風にあると思います。法学部においても、学科や必修科目に縛られず、自由に学習することができる環境が整っています。周りの学生も個性溢れる方々ばかりで、日々刺激を受けながら学生生活を送っています。

京都大学は学生同士で各々の個性を活かし、互いに高め合うことができる環境です。私は現在、2回生の時にいったビジネス交渉サークルINCの代表を務めておりますが、入ってからの3年間、多くの優秀な先輩や同期、また社会の第一線で活躍されているOB・OGの方々に囲まれて過ごすことができました。この環境の中で仲間と議論を重ねることで、自分の視野を広げ、思考力を鍛えることができたと感じています。京都大学では自分のための、自分が主役の大学生活を送ることができます。受験生の皆様、応援しています。

未来を切り拓く柔軟な思考力と創造力を培う

経済学部が望む学生像

経済学部の教員たちは、経済学・経営学の教育は、すぐに役立つ知識を与えるのではなく、学問的基礎のうえに柔軟な思考力と創造性を備えさせることだと考えています。そのため、大学において意欲をもって学び、社会に出てからの経済活動においても自分を成長させ続けようとする学生を望みます。経済学部は、これまで、産業・経営・学術・行政などの領域で活躍する人材を多数生み出しました。経済学部は、このような良き伝統を継承し、そこに自分なりの発展を付け加えようと思える学生諸君が入学してくることを望んでいます。

なお、経済学部は、平成21年度入試から高等学校の文系の教育課程に対応した一般学力検査による選抜(190名)だけでなく、理系の教育課程に対応した学力検査による選抜(25名)を行っており、平成28年度入試からは特色入試(25名)を導入しました。それは、数学などに現れる理学的才能や、総合的な学力とともに、長文読解力、問題発見力、論理的思考、柔軟な思考と創造性、そして高い自学自習の能力が経済学に結びつくことを期待しているからです。

経済学部への誘い

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919(大正8)年に法学部(法科大学)から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899(明治32)年から経済学関連の講義がスタートしていましたが、その歴史は日本でも一、二という伝統を持っています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけではなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から

自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

さらに本学部では、創立以来、演習(ゼミナール)制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。さらに、平成28年度入試から特色入試を導入しました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

経済学部の教育

●4つのコースを設置

経済学部は、経済と経営、経済学と経営学の相互依存関係を重視して、平成21年度から経済学科と経営学科の2学科を経済経営学科1学科に統合しました。学科による区別のない1学部1学科の体制のもとで、「理論・歴史コース」「政策コース」「マネジメントコース」「ファイナンス・会計コース」という4つのコースが示されていて、そのガイドにしたがって専門科目を履修することによって、コースそれぞれの特性に応じた専門化がはかれるようになっていています。1学年は前期と後期の2セメスターにわかれ、1セメスターにわたり毎週1回の授業を履修して試験に合格すれば2単位が得られます。学部科目はすべて選択科目ですが、入門科目、専門基礎科目、専門科目I、専門科目IIと年次配当によって階層化されています。

●第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、全学共通科目によって語学学習や教養学習を行うだけでなく、入学したばかりの学生に、不足した知識を補い、自立した学習力をつけるための「入門演習」と9つの入門科目(ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、基礎統計学、経済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、情報処理入門)によって、経済学・経営学の専門学習のための準備をすることになります。



●第2学年から学ぶこと

第2学年からは「専門基礎科目」及び「専門科目I」の授業群、第3学年からは「専門科目II」の授業群が取れるようになります。

第3学年以上になると、経済学・経営学の専門科目だけでなく、法学部が提供する法学や政治学の科目も取れるようになります。また、高度な学習を求める学生には、大学院と橋渡しする大学院共通科目も履修できます。

●少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習(ゼミナール)です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生

役立つと思います。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

●「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできるどころが京都大学経済学部です。

前回の要点

■ 管理会計の機能

- 教科書的には財務管理機能と動機付け機能
- より根源的には、自己認識機能・自己創造機能

■ 管理会計が必要な理由

- Q.組織構造？
 - 管理者管理→経営者の分身作り
 - なぜ管理会計が経営者の分身を作ることに役立つのか？
- Q.部分と全体？
 - 時空間のなかでの部分と全体(各部署と全社、短期と長期)
 - 組織の全体像を得る仕組みとしての会計
 - ・ 部分を網羅して全体を把握
 - 組織の全体像を創造するための仕組みとしての管理会計



入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし、現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。



経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いているので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基づいて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。



基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だったようです。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測ることなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計など、応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては、通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知ってますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

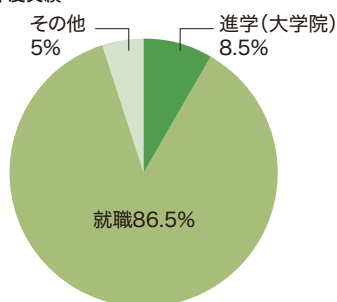
卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに90年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学会のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界、実業界のトップリーダーも少なくありません。

就職先の例

三菱東京UFJ銀行／三井住友銀行／
みずほフィナンシャルグループ／農林中央金庫／
京都銀行／日本政策投資銀行／三井住友信託銀行／
三井物産／電通／野村證券／東海旅客鉄道／
西日本旅客鉄道／三菱電機／トヨタ自動車／パロー／
監査法人トーマツ／あずさ監査法人／
野村アセットマネジメント／任天堂／日本生命保険／
東京海上日動火災保険／リクルートホールディングス／
金融庁／外務省／会計検査院／総務省／日本銀行／
府県庁／市役所

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2012年 卒業
有限責任あずさ監査法人 勤務
(膳所高等学校(滋賀県)出身)

島本 大地 さん

“チャレンジ” できる場所

経済学部では自由な学風の下、様々なことにチャレンジできることが一番の魅力だと思います。私の学生生活を思い返すと、ポートと会計士の勉強に尽きます。日本一を目指して合宿所に泊まりがけでポートの練習に励む傍ら、予備校に通い休憩時間で勉強をやるといふ、今思えばだいぶ無茶なことをやっていました。こういう生活があったからこそ、私は自分のやりたいことに一生懸命になることの大切さを学べたと思います。今の生活でも面白いと思ったことはすぐに取り入れ、行動してみるというスタンスは変わっていません。私にとって大学はいろんなことを経験でき学べる場所だと思っています。皆さんも自ら進んで学び行動し、この経済学部の環境でいい大学生活を満喫してほしいと思います。



卒業生メッセージ

2009年 卒業
住友商事株式会社 勤務
(甲陽学院高等学校(兵庫県)出身)

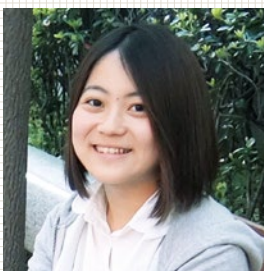
藤井 翔 さん

Enjoy!

私は現在、総合商社で働いています。グローバルな社会貢献を目指す業務は多岐にわたり、非常に刺激がある一方、未知の領域に日々挑戦する必要があります。私自身、ペットや畜産動物の健康を通じて人々への癒しや食の安全の提供を目指す事業を担当していますが、学生時代には想像もしていなかった分野です。

しかし、どんな時でもベースとなっているのは、間違いない経済学部時代の経験です。勉学のみならず、先生、友人から人として多くの刺激を受けました。

経済学部の自由な学風においては、何をやるにも自分次第だと思います。特定分野を追求するもよし、広範な知識の習得に努めるもよし。学生時代だけでなく、将来に繋がる大きな一歩になるでしょう。Enjoy your life!



在学生メッセージ

経済学部3年生
(南山高等学校女子部(愛知県)出身)

増田 遥 さん

自分次第でとことん楽しめる場所

高校1年生の時に「面白い人に沢山会える」と聞いて意識し出した京都大学。人の心理や組織のあり方に興味を持っていた私は、経済経営という幅広い履修ができる経済学部に入りました。

現在は農業やフリーペーパーに携わりながら、管理会計のゼミでグループ研究に取り組んでいます。賢いメンバーや面白い先生に囲まれ、新しい発見や苦い経験も含めて刺激の多い日々を送っています。

自由な学風の本学部は、勉学に動いむもよし、学校を飛び越えた活動に動いむもよし、自分がやりたいと思ったことをとことん選択できます。主体的にやりたい!と思うことを見つけられる人にとっては最高の環境だと思います。

皆さんとまたどこかでお会いできる日が来るのを楽しみにしています!



在学生メッセージ

経済学部3年生
(姫路西高等学校(兵庫県)出身)

柴田 右太郎 さん

『自由とは責任ある選択である』

「面白い人たちに会いたい」そんな思いで京都大学に入学し、現在様々な方面において才能あふれる人たちに囲まれてとても満足しています。今年で3年生となる私から皆さんに伝えたいメッセージは「Freedom is a responsible choice.(P.F.ドラッカー)」の一文に集約されています。受験大学を選ぶということ自体大きな選択ですが、入学後も講義、サークル、バイト、ゼミなど数々の選択を迫られることでしょう。ここで大事なことは自分が選択した結果、自身がいい方向に変化しなくてはいけない、つまり良くなるように行動しなくてはいけないということです。そのために10年後の自分を想像することは大変有効です。自分のありたい、あるべき姿に近づけるように選択と行動を繰り返すことができれば結果としてとても有意義な大学生活となることでしょう。京都大学は私たちに多くの「自由な」選択肢を提供してくれます。「自由」に伴う楽しさと困難を皆さんにもぜひ体感していただきたいです。

自然への疑問。自然からの声。そして自然の理に学ぶ。

理学部が望む学生像

- 自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- 自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- 高等学校の教育課程の修得により培われる十分な科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人

理学部への誘い

自然はどのようにになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を

持つ人たちが、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

京都大学理学部は理学科のみの一学科制をとっています。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野をいくつも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境のもと、常に新たな教育・研究のプロジェクトが計画・遂行されています。



理学部の教育



●理学部の教育理念

教育目標

- 自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- 個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- 自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切に、自律的学修が推奨される学風
- 理学科のみの1学科制
- 緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

●理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と専門基礎科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目と、学部科目のうち専門基礎科目を主として履修します。全学共通科目は、全学部・研究所・研究センターの教員により全学部の学生を対象に開講されている科目で、次のような8つの科目群に分類されています。

- 人文・社会科学科目群
- 自然科学科目群
- 外国語科目群
- 情報科学科目群
- 健康・スポーツ科目群
- キャリア形成科目群
- 統合科学科目群
- 少人数教育科目群

このうちの自然科学科目群には、理学部クラス指定科目など理学部教員が担当する科目も多数含まれています。また、専門基礎科目は自然科学の基礎的事項を扱い、専門科目を履修する上での基礎となる科目です。

これらの講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験・実習など様々な形の授業科目があり、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身に付け、人間としての視野を広げるように工夫されています。

2年次の終りに系登録をする。

理学部には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理学系：数学
- 物理学系：物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系：地球物理学、地質学、鉱物学
- 化学系：化学
- 生物科学系：動物学、植物学、生物物理学

これらの系への登録は2年次の終りの時期に行います。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終りまでに修得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあったり、理学部での学習における様々な不安や問題について相談できるように、1、2年次では理学部の2人の教員が担任と

なる少人数クラス(1クラスの学生は10数名)が設けられています。そのほかにも臨床心理士のいる理学部相談室があり、学生生活や進路などの悩みを相談することができます。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

3年次では、上の5つの系のいずれかに属し、その系で提供される専門基礎科目・専門科目(演習や実験などの科目を含む)を履修します。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。また専門科目には卒業に認められる履修単位の上限がありません。これは広く浅く学ぶことを勧める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めていき、各自に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修しやすくするためのものです。

4年次では卒業研究に取り組む。

4年次では卒業研究として、数理学系では数学講究、その他の系では課題研究と呼ばれる科目を履修することが必修になっています。この科目では、学生は個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力を身に付けます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次からの大学院への飛び入学等について。

大学院理学研究科の数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績で修得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。

博士後期課程において特に優れた研究成果を挙げた者については、修士課程と通算して5年未満の在学中で博士の学位が授与されることがあります。



理学部のホームページ <http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 理学部教務掛 Tel.075-753-3637

▲授業風景：計算機演習(上)
実験ゼミ(下)

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いてきましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、あるいは物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性格により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、代数的位相幾何学、微分位相幾何学、微分幾何学、力学系、複素多様体論、複素函数論、表現論、函数解析、微分方程式論、確率論、代数学解析学・数理物理学、作用素理論、計算機科学、応用数学、保険数学



▲数理科学系の講義風景

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とします。本系は3教室に分かれ、物理学第一教室では主に物質の構造と性質について、物理学第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から最遠方銀河まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っています。

不規則系物理学、量子光学・レーザー分光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、量子凝縮物性、時空間・生命物理、ソフトマター物理、非線形力学、凝縮系理論、相転移力学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、素粒子物理学、宇宙線物理学、素粒子論、原子核理論、天体核物理学、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学



▲物理科学系のゼミ風景。学生の発表と学生間の議論を通じて深い理解が得られます。

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としています。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラと関係している太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか。身近であり、遙かな事柄の研究・教育を行っています。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、岩石学、鉱物学、地層学、地史学、宇宙地球化学



▲3回生向けの課題演習で阿蘇火山を訪れ、中岳第一火口の湯だまりを観察している様子

化学系

化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

固体物性化学、生物構造化学、量子化学、理論化学、物理化学、分子分光学、光物理化学、分

子構造化学、電子スピン化学、表面化学、金相学、無機物質化学、有機化学、有機合成化学、集合有機分子機能、生物化学、分子性材料、遺伝子動態学



▲化学系の実験風景

生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、動物行動学、動物生態学、動物発生学、環境応答遺伝子科学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、ゲノム情報発現学、理論生物物理学、分子生体情報学、神経生物学、構造生理学、分子発生学



▲専門実習風景



卒業後の進路

理学部を卒業後、大学院に進学する者が全体の5分の4、また、民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。

なお、理学研究科で博士の学位を取得するものは毎年100名程度です。

就職先の例

(株)IICパートナーズ/
 あいおいニッセイ同和損害保険(株)/
 アイレック技建(株)/アクセンチュア(株)/
 (株)アニマライフ/(株)伊藤軒/伊藤忠丸紅鉄鋼(株)/
 Willer Alliance /エスユーエス/エムハンド/
 (株)カルテック/京都大学/(株)クランティム/
 国土交通省/サン・メルクス/四国電力(株)/
 (株)Speee / ZMP / 全日本空輸(株)/
 ソフトバンク(株)/東京海上日動火災保険(株)/
 図書文化社/(学)西大和学園/日本生命保険(相)/
 日本プロセス(株)/(株)ノート/
 (株)日立産業制御ソリューションズ/富士通(株)/
 (株)三井住友銀行/(株)三菱東京UFJ銀行/
 (株)リンク/ローム(株)/ワークスアプリケーションズ

理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状(数学・理科)と中学校教諭一種免許状(数学・理科)の課程認定を受けています。

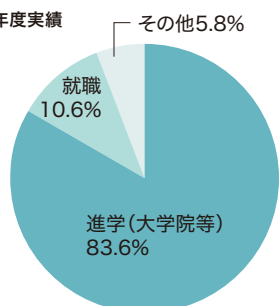
数理学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については、測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けていますので、所定の科目を修得することにより、測量士補の資格を取得することが可能です。

また、学芸員の資格についても、所定の科目を修得することにより取得することが可能です。

アクチュアリーサイエンス(保険数学)とは

アクチュアリーサイエンスとは、保険や年金などにおける将来のリスクや不確実性の分析・評価の方法を、数理的手法を用いて研究する学問分野です。数理学系では、日本アクチュアリー会との連携のもと、企業で指導的な立場でアクチュアリーとして豊富な実務経験を持つ5名の客員教授を招聘し、学生が、生命保険や損害保険についての講義・演習を通してアクチュアリー試験のための基礎知識を修得することができるようになっています。

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2016年 物理科学系卒業
 理学研究科物理学・宇宙物理学専攻
 物理学第二分野 修士課程1回生
 (豊島岡女子学園高等学校(東京都)出身)

越川 亜美 さん

自由の学風に魅せられて

「大学見学でキャンパスに足を踏み入れた時、そこに数年後の自分の姿が見えたから」という理由で京都大学を志願しましたが、大学での生活は、当時思い描いていたものとは桁違いに刺激的なものでした。

私の大学生活におけるターニングポイントは、課題演習での加速器を用いた実習でした。非常に大きな装置を用いることで、ミクロな世界の物理を手取るように実感できたことは、忘れがたい経験となりました。また、データ解析では理論・実験の先生や学生同士で議論し、例年とは違う新しい結論も導くことに成功し、研究の面白さを体感しました。これがかきつけて、現在は原子核実験の分野で研究を行っています。

貪欲に学ぼうとすれば、それに応えてくれるような環境がここにあります。

皆さんも、京都大学で新しい世界を切り拓いてみませんか？



卒業生メッセージ

2016年 地球惑星科学系卒業
 理学研究科 地球惑星科学専攻
 地質学鉱物学分野 修士課程1回生
 (静岡高等学校(静岡県)出身)

新井 貴之 さん

自由な環境で興味の赴くままに

私は、高校で学習した数学や理科をもっと深く知りたいと思い、京大理学部へ入学しました。専門が決まっていない初めの2年間は、数学・物化生地の各分野に手を出し、自分がどの分野に興味があるかを探りました。そして、高校や大学で履修した地学の授業・講義が興味深かったこと、野外に出て実際にモノを見るのが楽しかったことなどから、地球惑星科学の道に進みました。

3回生以降は、地球惑星科学の専門科目に加えて、それらに関連する科目も履修しました。そして現在は、昔の気候を復元する研究をしています。

理学部はとにかく自由です。専門を究めると同時に幅広い分野に興味の赴くままに学ぶことができます。理数系科目が好きな皆さん、ぜひ京大理学部に来て様々な分野に触れてみてください。面白いと思えることがきっと見つかります。



在学生メッセージ

化学系4回生
 (磐城高等学校(福島県)出身)

南 裕子 さん

ゆるやかな専門化

京大理学部の最大の魅力は、理学の中のどの分野を専攻するかを入学して2年間は決めないことだと思います。化学や物理などの専門科目が決まるまでの間、興味のある分野の授業を自由にとり、また自分とは異なる分野を志す友達と交流するなかで様々な分野に触れられます。このシステムにより各分野の魅力を学んでいながら、専攻する分野をしばって選ぶことができます。

配属された研究室では、入ってすぐに実験に取り組むことができ、楽しい研究生活を送っています。実際に自分の手で実験を行い、また誰も起こしていない反応が目の前で起きていく毎日はとても楽しく充実したものです。

将来の夢や学びたいことがまだ決まっていなくても、数学や理科が楽しいと感じるのなら、ぜひ京大に来てやりたいことをみつけてください。



在学生メッセージ

物理科学系3回生
 (洛星高等学校(京都府)出身)

田口 健太 さん

京大理学部という、素晴らしい学びの環境で

僕は、昔から宇宙に興味を持っていました。高校時代に、天文学研究の世界を知りたくて、高校から程近かった京大のオープンキャンパスや市民向け講演会などに多数参加して、この大学でなら最先端の研究を本気でできると思い、京大理学部に入學しました。

入学後は天文だけでなく地学にも興味を持ち、どちらを専門にするか迷うことがありましたが、「緩やかな専門化」があったので、数学・物理の基礎固めをしつつ、天文・地学もたくさん勉強した上で、自分自身で宇宙物理に決定することができました。もっとも、初めから分野を絞って勉強するのも自由です。

受験生の皆さん、最先端の研究者による授業を自分で自由に取捨選択して学ぶことができ、努力次第では最先端にアプローチできるという、素晴らしい贅沢ができる環境と一緒に勉強しませんか？

新医学領域の開拓と革新的医療の創成

理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務としています。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間です。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命です。

医学部が望む学生像

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その

結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の特任家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。



医学部 医学科の教育

医学科のカリキュラムは、医師や医学研究者を養成するための講義と実習などを基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般を学び、経験します。基礎医学では、生命科学ならびに医師に必要な解剖学・生理学・生化学・病理学・法医学などを学びます。社会健康医学では、個人に対する医療だけでなく、社会全体に対する医学の応用を学びます。臨床医学は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習を通じて、基礎となる理論と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて卒業認定後に、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD-PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。なお、MD-PhDコースでは現在、この他にも、6年の医学部課程を修了(卒業)後に大学院へ進学し、早期に学位を取得できるプログラムの設置を準備中です。このように医学科では研究者になる種々の道が用意されています。

このような学生の学習を促進するために、京都大学では医学教育推進センターを設けて、教育改革を推進しています。

●医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生

の、医師、医学研究者としての資質を最大限に伸ばし、医療や医学研究の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には専門知識の習得と同時に、その知識を論理的に使うことで問題を解決する能力や、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性および人間そのものに対する深い洞察力が必要とされます。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方で、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究も重要です。また、医療制度が寄って立つ社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このような分野ですぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓越した能力が必要です。京都大学には、国際的にも卓抜した研究業績を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を育成する環境が整えられています。

●生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年から第2学年にかけては、「全学共通科目」の履修が主体となります。並行して、医療人の素養をはくくむ取組や研究マインドを育成するチャレンジが始まります。国際的に活躍する医学者・医療人を育成するた

めに、外国人教員による英語での生物学授業も用意されています。

なお、「全学共通科目」は第3学年から第4学年にかけての履修も可能で、グローバルに活躍する人材を育成するために、医学科所属の外国人教員が担当する医学関連の英語セミナー(ILASセミナー)の履修を推奨しています。

基礎医学の履修は、第3学年から本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていきます。同時に、京都大学では、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、身をもって最新の医学研究を体験できる機会となっています。このため、早い時期から海外で研究を行う学生もいます。

●実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適切に責任をもって診療できるリーダーとしての人材を育成することが強く求められています。臨床医学は主に第3学年の後半から第4学年の授業で学び、第5・6学年では病院での実習を行っています。京都大学では、平成26年度より新しい実習カリキュラムを導入し、より参加型に重点をおいた実習を実施しています。

医学部附属病院には、世界や日本の医学をリードする医師が多数います。また、近年





▲授業風景：肉眼解剖学実習

多くの新しい部門、設備が加わりました。例えば基礎医学との橋渡しとしての臨床研究センターが役割を果たし、いち早く患者さんに最先端の医療を届けています。また、地域の医療機関との連携により医療の効率を上げる地域医療ネットワークも機能しています。初期診療・救急医学の部門も整備され、多くの救急患者さんを助けています。京大病院には移植医療や、分子治療、あるいはiPS診療部など最先端の医療があり、世界の最前線を体験できます。がん専門病棟も整備され、診療・治療・教育の場として充実した施設です。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教

育に携わっており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。このような密度の高い臨床教

育を通して、最新の医療とその発展に貢献できる人材育成をめざしています。

●医学部医学科カリキュラム概要



医学部・医学研究科のホームページ <http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>
 入学についてのお問い合わせ 医学研究科 教務・学生支援室 Tel.075-753-4325

基礎医学研究者 (MD 研究者) の育成

医学部においては、基礎医学研究者を育成するための道が種々用意されています。

基礎医学研究者育成プログラム

東京大学、大阪大学、名古屋大学、京都大学の4大学が合同で、長期的視点で基礎医学研究者の育成プログラムを開発すべく、医学分野における教育体制の強化と研究の活性化に取り組んでいます。

1回生全員を対象としたプライマリーコースは医学科のカリキュラムに組み込まれており、アドバンスドコースでは選抜された学生20名程度を対象に論文精読会、基礎医学セミナー、ラボ・ローテーションでの研究成果発表、短期海外留学や学会参加へのサポート、4大学合同リトリート、コンソーシアムを組む連携大学間(福井大学、滋賀医科大学、神戸大学、京都大学)でのリトリート・交流会を行っています。

ラボ・ローテーション

1年次後期より研究室を回り、各々の研究室での研究活動に参加します。ラボ・ローテーションを通じて、医学研究のさまざまな分野と手法を広く見聞し、講義だけでは分からないそれぞれの研究の実際を体験、その中で自分の研究者としての適性を判断

し、性にあった実験手法と分野を見いだすことを目的としています。さらに、多くの教員と身近に接することにより人的ネットワークを形成することができます。

MD-PhD コース

1年次より研究室を回り、各々の研究室での研究活動に参加するラボ・ローテーションを行い、4年次修了時点で学部を休学して大学院博士課程へ進学、医学研究に専念し、早期に医学博士の学位を取得後、学部5年次へ復学するカリキュラムです。



▲MD-PhD コース実験風景



▲全国リトリート2015(神戸)

コース修了者からのメッセージ



2015年医学部卒業

2005年医学部入学、2009年医学研究科入学、
2013年医学博士修得
京都民医連中央病院 研修医
(灘高等学校(兵庫県)出身)

石井 慧 さん

MD-PhDコースは学部学生時代の柔かい頭脳と吸収力を保持したまま大学院博士課程を経験し、早くから一流の研究室に参加して博士号を取得、その後再び学部学生に戻り医師免許を取得するコースです。京都大学医学部の基礎研究はどの研究室も世界の最先端を走るレベルにあり、誰も答えを知らない問題に早くから触れることができる環境が整っています。この素晴らしい環境や制度等を大いに利用し、臨床能力と基礎研究力のどちらも兼ね備えた“Physician scientists”を目指すというも皆さんの眼前に広がる選択肢の1つです。しかも、この選択肢は皆さんしか選ぶことができません。誰も通ったことのない道と一緒に開拓していきましょう!

『JRD Outstanding Paper Award 2014』受賞
(<http://reproduction.jp/NewHP/JRDAward/2014.html>)



▲授業風景：微生物学講義

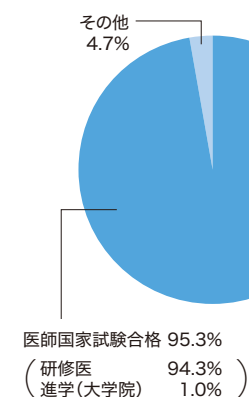
卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もいますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の卒後臨床研修を行います。

医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者には、厚生労働省が実施する医師国家試験の受験資格が与えられます。

2015年度実績



課外活動

医学部医学科には公認団体が体育系・文科系合わせて29団体あり、課外における活動も活発です。

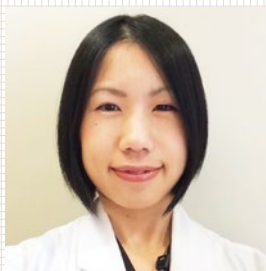


▲卓球部活動風景



▲茶道部活動風景

Message



卒業生メッセージ

2015年 卒業
京都大学医学部附属病院 研修医2年目
(四日市高等学校(三重県)出身)

矢田 奈々代 さん

可能性は無限大

人と話すのが苦手な友達が多く、模試はE判定でひたすら勉強と部活に励んでいた高校生活。神頼みでギリギリ合格し、入学後に私を待っていたのは、多種多様な個性豊かな人々との出会いと、無限に広がる選択肢。

初めての海外は4回生の時のインドでの病院実習。ポリクリ(臨床実習)ではタイの病院にも行かせていただきました。このような経験を経て6年間で身につけたのは、基盤となるコミュニケーション能力と、自分のやりたいことを実現させるためにチャンスを逃さず一歩前に出て、周囲の人々の力を貸して頂くという勇気と行動力。

京都大学は自分の夢の実現や人間らしい社会人への成長に必要なものがすべて手に入る環境です。自信のあるあなたもいないあなたも、好奇心さえあれば大丈夫!ぜひ京都大学で共によく学び、よく遊びましょう。



卒業生メッセージ

2015年 卒業
京都大学大学院医学研究科
医学専攻博士課程2回生
神経・細胞薬理学教室所属
(京都教育大学附属高等学校(京都府)出身)

通山 潔 さん

学際色豊かな環境

私は総合大学としての京都大学の魅力に惹かれて入学しました。人文・理数を問わず多様な分野の専門家が同じキャンパスでそれぞれの間を切磋琢磨している環境は、授業や課外活動を通じて知的好奇心を維持し向上させる多くの機会を与えてくれました。

また、医学研究科の多くの研究室が学部生の受け入れに積極的であり、日頃からスタッフ・学部生の垣根を超えて真剣に学問的議論を交わすことができました。私は基礎医学/生物学について深く知りたいという思いから学部卒業後に直接大学院に進学する道を選択しましたが、自分の興味を思うがまま深めて進路を選ぶことを可能にする知的風土こそが京都大学の魅力だと思います。

受験生の皆さんには日頃から勉学においても多様な分野に触れ、広がりのある問題意識を育てていただくことをお勧めします。



在学生メッセージ

医学部医学科5回生
(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎(大阪府)出身)

周 素蘇 さん

考える力

京都大学と聞けば、なんとと言ってもまず「自由の学風」というスローガンが思い浮かぶのではないのでしょうか。私自身もこの特色に惹かれて本学を志望しましたが、実際の学生生活で身をもって経験してはじめて、この校風を真に理解できた気がします。

入学当初から許される研究室通いや勉強会を通じて、臨床だけでなく基礎研究の第一歩を支えてくださる先生方、幾度も長期留学、研修が始まるまでに外部の病院を見て回ることができるカリキュラムなど、学生が興味を持つであろうあらゆる分野に関して、豊富な機会が与えられています。

教科書をなぞるだけの学習を超えた、「自分から」何を学ぶか、どう学ぶかを考える力をつけるには絶好の環境であると思います。



在学生メッセージ

医学部医学科4回生
(智辯学園和歌山高等学校(和歌山県)出身)

高岡 沙織 さん

無限の可能性

京都大学医学部に入学するまでは、まさか自分がこのような大学生活を送るとは思ってもいませんでした。私は現在、医学部内の研究室で基礎医学研究を学んでいます。学生の自主性を重視した、いい意味で放任主義な環境でのびのびと実験を続け、1年生の時から取り組んでいたプロジェクトを論文にまとめることができました。研究の厳しさや難しさを感じるとともに、答えのないQuestionについて考えることの面白さに気づき、日々楽しんでいます。

ここには無限の可能性があり。京都大学医学部の素晴らしい環境があったからこそ、私は基礎医学研究の魅力を知ることができました。皆さんが本学で、自分自身も気づいていない可能性を切り開いていくことを願っています。

語らいから学びあい…創りあげる

人間健康科学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育課程の中心として取り上げ、新入生から「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チーム医療に積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中

心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上で高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。また、総合医療科学領域の専門家を育成します。

人間健康科学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展さ

せ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、人間健康科学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。人間健康科学科は高度医療専門職を、そして総合医療科学領域において、将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

授業科目の区分

人間健康科学科の授業科目は、全学共通科目、初年次教育科目、基礎・臨床科目、専門科目から成り立っています。全学共通科目は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通じて豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。初年次教育科目、基礎・臨床科目は、医学部人間健康科学科全コースの学生個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各コースそれぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

●セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。人間健康科学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

●全学共通科目

人間健康科学科では卒業に必要な全学共通科目の単位数を定めています。また、特に履修を要する科目があります。

●初年次教育科目および基礎・臨床科目

初年次教育科目および基礎・臨床科目は学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、各コースに共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。人間健康科学科の学生はコース共通で履修することとなります。

●コースの選択

一般入試で入学した学生は、2年次前期終了時に、希望にもとづいて、先端看護科学コース、総合医療科学コース、先端リハビリテーション科学コースのいずれかを選択します。特色入試で入学した学生はコースを選択する必要はなく、入学時に希望したコースに進みます。

●専門科目（先端看護科学コース）

先端看護科学コースでは1年次から学んだ

人間健康科学や疾病論を基礎に、2年次後期から専門科目を開講します。第IVセメスターでは「基礎看護学」等により、独自の健康観や看護観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。さらに、「基礎看護学技術論」「基礎看護学技術演習」等により、看護学において基礎となる援助技術の知識や方法論を学習します。並行して「臨床基礎看護学」や「臨床基礎看護学技術演習」等により、臨床における援助技術の知識や方法論を学習します。

第Vセメスター以降は、成人、精神、母性、小児、在宅、地域の各専門領域の講義、演習、実習を開講します。これらの領域では専門基礎科目や基礎看護学・臨床基礎看護学の学習を踏まえ、領域の特性や捉え方、疾病をもつ人や状況に対するアセスメントなどの専門的知識と、領域特性に応じた援助技術の方法論を学習します。

第VII～VIIIセメスターでは「在宅」と「地域」の演習と実習「統合実習」と「統合看護(卒業研究)」を開講します。また、将来の看護研究の礎となる看護研究法、看護倫理についても学びます。第VIIセメスター以後は、各研究室に配属され、教授、准教授・講師よりマンツーマンで研究指導を受けます。このように、第VIセメスターまでの学習を振り返り、各人の課題に沿って研究的なプロセスをたどることにより、1年間かけてじっくりと卒業研究に取り組みます。

●専門科目（総合医療科学コース）

総合医療科学コースでは、本コースを選択した学生に対し、第IVセメスターから共通性の高い総合基礎科目と、専門性の高い総合専門科目を開講し、各自の進路に合わせて選択することができます。第IVセメスターでは主に総合基礎科目を開講し、生命基礎医学講座、臨床医学講座、医療理工学講座に共通の講義および実習を行うことによって医学・医療の基盤となる知識と技術を身につけます。第V・VIセメスターでは総合専門科目を開講し、専門性を高めるための講義と実習を学生自らが選択します。これにより医学・医療の知識をベースに持ち、個々の学生の特性、能力の多様性、自主性を重んじながら周辺科学領域に係る高い専門性を身につけ、先端医療技術の開発や近未来社会の医療ニーズに応える力を養います。第VII・VIIIセメスター(4年次)では、生命・基礎医学講座、臨床医学講座、医療理工学講座のいずれかの研究室を選び、指導教員のもと卒業研究

を行います。研究活動を通じて「自ら問題点を見だし、自らそれを解決していく能力」を養います。第IVから第VIセメスターに開講される所定の専門科目の講義、臨床実習で構成された教育プログラムを履修することで、臨床検査技師の国家試験の受験資格を得ることが出来ます。

●専門科目（先端リハビリテーション科学コース理学療法学講座学）

理学療法学講座では、第IVセメスターで「入門理学療法・作業療法」等を選び、第Vセメスターから開講される専門科目において、最先端の健康観や理学療法観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第VIセメスターから第VIIセメスターにかけては臨床評価実習および臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実際を経験します。臨床実習終了後、第VIIIセメスターにかけて卒業研究と発展臨床実習等の科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

●専門科目（先端リハビリテーション科学コース作業療法学講座学）

作業療法学講座では、第IVセメスターで「入門理学療法・作業療法」等を選び、作業療法学講座を選択した学生に対し、第Vセメスターから専門科目を開講します。作業学、生活機能分析学実習等により、最先端の健康観や作業療法観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第VIセメスターから第VIIセメスターにかけては臨床評価実習および総合臨床実習を行い、臨床現場における作業療法の実際を経験します。総合臨床実習終了後、第VIIIセメスターにかけて卒業研究と先端作業療法学等の科目により、さらに作業療法学を深めていきます。





医学部人間健康科学科のホームページ <http://www.med.kyoto-u.ac.jp/hs/>
入学についてのお問い合わせ 医学研究科 教務・学生支援室(人間健康科学科教務掛) Tel.075-751-3906

▲授業風景

コース紹介

先端看護科学コース

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既存の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、先端看護科学コースでは、教育・研究体制として大講座制をとっています。将来、国際的な看護学分野におけるリーダーを育成するために、大学院への進学を推奨しています。

基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

家族看護学講座

少子化・核家族化が進む21世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生き育てることに直接あるいは間接的に参加できるように、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

地域看護学講座

地域看護学分野では長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。在宅医療看護学分野では、訪問看護や高齢者の施設における看護、医療について学びます。

総合医療科学コース

学部・大学院(修士)を通したカリキュラム設定により、医学・医療の知識をベースに持ちながら、周辺科学領域に係る高い専門性を身につけるための素地を学部段階から養成します。加えて、大学院教育(修士、博士)の充実による医学・医療に関わる様々な分野において、再生医療などの最新の医療を支える基盤および近未来社会の医療ニーズに応える独自の学術研究の推進と、世界レベルの研究を牽引する研究者および先端医療を支える高度医療専門職を育成します。本コースは、先端医療技術の開発やそれを担う人材を育成する上で基盤となる学問分野に対応した、以下に示す3つの講座からなります。

生命・基礎医学講座

病気を理解する上において、生命の基本原理解り、生命を統合的に把握する力が必要になります。疾患の原因や治療、予後予測に必要な不可欠な生体情報を多角的に解析し、全体を俯瞰できる総合的医療研究者、さらに、ヒトを含めた生命、生物原理解り、ヒト疾患の原因や病態を学び、現代医療の様々な問題を解決できる研究教育者を育成します。

臨床医学講座

生体から得た情報を臨床における診断や治療に応用すること、特に移植医療や再生医療、遺伝子治療などの先進医療の展開、確立に寄与することを目的として、その基礎となる理論や技術について、教育・研究を行います。同時に臨床現場の様々な問題の解決に向けて積極的・機動的に対応する能力を持った人材を育成します。

医療理工学講座

先進医療を支える生体医療情報解析や医療画像診断技術の進歩のためには、医学・医療分野の知識に加え、医学と理学・工学の融合分野において研究や実践で世界を牽引する人材が必要となります。大学院修士課程進学を見据えたカリキュラム設定と、医療系の大学では他に先駆けて本格的な情報理工学の研究・教育を推進してきた本講座の特徴を十分に活かし、先端医療機器システムや医療・介護支援技術の開発、さらに10年後、20年後の社会が求める医学・医療に関わる様々な分野でグローバルに活躍できる人材の育成を目指します。

先端リハビリテーション科学コース

高度先進化する医療と少子高齢化・グローバル化する社会を背景に、リハビリテーション医療の領域では高い専門性とリーダーシップを発揮できる人材、保健・医療・福祉・行政において幅広い視野をもつことのできる人材、国際社会の中で活躍できる人材および創動的・科学的な視点から研究と臨床に取組むことのできる人材が求められています。

先端リハビリテーション科学コースではこれら人材として理学療法士と作業療法士の高度医療専門職を育成します。

理学療法学講座

理学療法は、日常生活に必要な基本動作能力に障害がある人々、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。それらの技術を提供する医療専門職が理学療法士です。

少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療機関だけでなく、地域における保健、福祉の分野などにも拡大しています。そのため理学療法士には、医療、保健、福祉にまたがる専門職として、バランスのとれた活動が求められています。また医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされる理学療法士には、専門領域の知識や技術を習得するだけでなく、科学的根拠に基づいて行動して問題を解決する能力と豊かな人間性の涵養が必要です。理学療法学専攻では、このような社会的ニーズに応えることのできる高度な専門職としての理学療法士を養成します。そして我が国と世界の理学療法を牽引できるリーダーおよび研究者を養成します。

理学療法学講座では、理学療法学とその関連領域全体を俯瞰できる幅広い視野を養います。そして我が国および世界が求めている、次代を担う高度医療専門職の基盤を形成する教育を行います。本講座の教育の最大の特徴は、附属病院で実践される最先端の医療に接しながら行われる臨床教育です。この教育環境が提供できることは京都大学の最大の強みであり、臨床教育の中で科学的な根拠のある医療(Evidence Based Medicine: EBM)に基づいた判断と、それに基づく柔軟な対応能力を涵養します。また基礎教育科目やセミナー、卒業研究などを通して科学的な思考、および実践的な問題解決能力を養います。この学部教育は大学院への接続を強く意識したカリキュラム設定にしておりますので大学院に進学することにより、理学療法領域のリーダーとなることのできる教育プログラムが提供されます。実

際に学部・大学院接続の教育を修了した本講座の卒業生の中から、世界と伍して理学療法の実践と研究を行うことのできる人材が多数輩出されています。彼らは大学の教員や研究員、大学附属病院や臨床研究中核病院等の理学療法士として活躍中で、世界から注目されています。

作業療法学講座

ひとの日々の生活は、身辺処理や生活管理など生活を維持する活動、職業や家事・育児・学業などの仕事に関する活動、遊びや余暇とさまざまな活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来し、生活に障害をもたらします。

作業療法学講座は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、臨床教育と研究を行います。

生活を科学する作業療法

作業療法は「適応の科学」と言われ、病や障害により日々の暮らしに支障を来している人々に対し、自律して生活に適応する能力の発達・回復・開発・維持を援助します。生活への適応困難は、生理機能、運動機能、認知機能、社会的機能などのいずれかの要因により、もしくは複数の要因が重なって生じます。生活に生じた問題を分析し対策をたてるためには、人の心や身体の仕組み、モノの捉え方・判断の仕方、学習・記憶の仕方、社会規範の理解・対応の仕方、行為・動作として表現する仕組みなどに関する知識が必要となります。

作業療法学講座では、適応機能の改善・回復を効果的に実践するための作業活動の特性を学び、対象者個々のニーズに合わせ作業を適応・段階づける知識・技術を獲得する作業分析、評価、援助法などを体系的に学ぶことができる教育プログラムを提供します。

作業療法に限らず、リハビリテーションに関連する専門領域は、他の医療領域に比べて歴史が新しい領域であり、今後さらなる発展が要望されており、高度先進医療と相補する治療・援助技法として最も脚光を浴びています。その要望に応えるために、研究を遂行し絶えず精練していき、研究を臨床の場に具体的に反映することができる人材を育成します。

明日を拓く作業療法

2007年度より大学院(医学研究科人間健康科学系専攻)が開設され、臨床研究と共に、近赤外線分光法、脳波、自律神経機能測定、神経心理学的検査、脳磁図などによる客観的指標の研究にも取り組み、京都大病院と連携し、高度な臨床専門職、教育・研究職を育成しています。

新たな研究分野への展開

人間健康科学科は2017年4月の組織再編において、新たにビッグデータ医学分野を設定します。ビッグデータ医学は、ゲノム医療に基づく個別化医療と、そのために必要な新たな早期診断手法の研究開発を強力に加速するために必須の分野です。この分野の研究開発や人材育成の具体的な取組は、我が国ではこれまで皆無に等しく、米国に大きく遅れをとっています。人間健康科学科では、バイオインフォマティクス・ビッグデータ科学・ゲノム医学・医療情報学・医療統計学に総合的に精通した指導者によって、体系化したカリキュラムが検討されています。本学科から輩出される人材が、医療ビッグデータ解析や臨床ゲノム解析に基づく医療や研究開発プロジェクト、人材育成プログラムで活躍し、我が国のみならず世界を牽引していくことが期待されます。

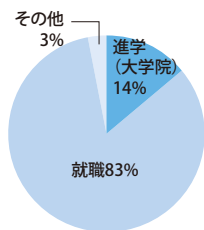
卒業後の進路

人間健康科学科で取得可能な資格

人間健康科学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

[看護学専攻] 看護師、保健師(選択制) [検査技術科学専攻] 臨床検査技師 [理学療法学専攻] 理学療法士 [作業療法学専攻] 作業療法士

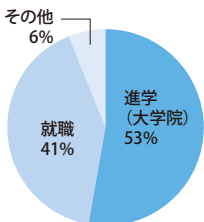
2015年度実績



[看護学専攻]

医療系(病院、保健所、市町村、企業内健康管理部門など)、官公庁、一般企業、教育研究機関、大学院進学など

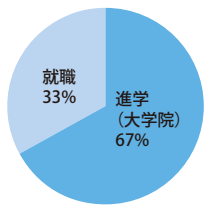
進学(11)	大学院	11
就職(63)	医療機関	47
	一般企業	6
	官公庁	9
	教員	1
その他		2



[検査技術科学専攻]

医療系(病院、診療所、保健所等)、教育研究機関、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など

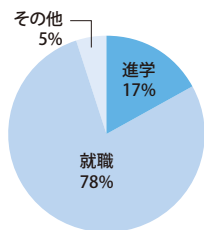
進学(19)	大学院	19
就職(15)	医療機関	7
	一般企業	8
その他		2



[理学療法学専攻]

医療系(大学病院、リハビリテーション専門病院、一般病院)、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など

進学(14)	大学院	14
就職(7)	医療機関	6
	一般企業	1



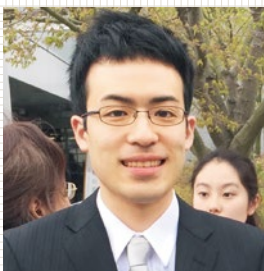
[作業療法学専攻]

リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、児童福祉施設、一般企業、行政機関、大学院進学など

進学(3)	大学院	3
就職(14)	医療機関	10
	一般企業	4
その他		1



Message



卒業生メッセージ

2010年 人間健康科学科看護学専攻卒業
2010~2015年 京都大学医学部附属病院 勤務
医学研究科人間健康科学系専攻 修士課程2回生
(彦根高等学校(滋賀県)出身)

西元 裕也 さん

世界で活躍できる医療人へ

私が思う京都大学の魅力は、その環境の良さと大学の特徴でもある「自由の学風」にあります。これまでに9人のノーベル賞受賞者を輩出するなど、世界を牽引する大学であり、素晴らしい教員と優秀な学友と出会うチャンスがたくさんあります。

近年、医療の発展・多様化の中で看護に対する期待は非常に高まっています。京都大学では、看護学・医療技術の分野において、世界で活躍できる人材育成と人間健康科学の発展を目指しています。私は、医学部人間健康科学科を卒業して臨床現場で働いた後、現在は大学院へ進学し、患者さんを対象にした研究を行っています。また、共に学んだ学友たちも医療現場のみならず、企業や省庁・国際機関、研究機関等、様々な場所で活躍しています。皆さんもこの京都大学で看護を学び、将来の医療を一緒に担っていきませんか。



卒業生メッセージ

2014年 人間健康科学科検査技術科学専攻卒業
2016年 医学研究科人間健康科学系専攻
検査技術科学コース修士課程修了
京都大学医学部附属病院 検査部 臨床検査技師
(諫早高等学校(長崎県)出身)

西村 綾 さん

今と将来を見据えて

臨床検査技師は、患者さんを検査することでその患者さんにふさわしい治療へと繋げる重要な役割を担っています。検査技術科学専攻では、検査の重要性とすばらしい可能性をトップレベルの医療のエキスパートの方々から直接学べ、医療に対する志がより一層強くなりました。

京都大学は自分のやりたいことを叶えてくれる十分な学風・環境が整っています。興味があること、挑戦したいことがあるならこれほど自由な探究の場はないでしょう。ちょっとした好奇心が自分のこれからを決定づけてしまう程、様々な分野に触れて勉強・行動できる環境、そしてそれを支えてくださる教授や仲間がいます。

私は現在、臨床検査技師として少しでも患者さんの力になれるように今でも勉強の毎日です。京都大学で得られる知識や行動力は必ずあなたの財産になりますよ!



在学生メッセージ

理学療法学専攻 3回生
(帝塚山学院泉ヶ丘高等学校(大阪府)出身)

岡田 淳 さん

京大で理学療法を学ぶという選択

「日本の理学療法界のリーダーたれ!」ある教授の一言に心が大きく揺さぶられました。京大には日本の理学療法界を牽引する教授の方々がたくさんおられ、より専門性の高い講義を受けることができます。学生は、部活やサークルに所属する人も多く、授業で学んだ理学療法の知識を部活のトレーナーとして生かしている人もいれば、日本理学療法学生協会等で活躍する人もいます。そのようなクラスメイトとともに送る大学生活は、私にとって刺激の多い充実したものです。また、学年を越えた勉強会や年に数回開かれる交流会では、多くの先輩から臨床実習のことや将来への展望について聞くことができます。最後に、受験生の皆さんの目の前には様々な困難があるかもしれませんが、京都大学での目の前には数多くの可能性が広がっています。ご健闘をお祈りいたします。



在学生メッセージ

作業療法学専攻 4回生
(京都産業大学附属高等学校(京都府)出身)

大江 さつき さん

作業療法という学問

私は「ひとに関わる仕事がしたい」と考えていた高校時代に作業療法士の存在を知り「これだ!」と感じました。当時、作業療法という学問、作業療法士の仕事は漠然としたものでしたが、京都大学での実習や授業を通して、患者さんをはじめ日本の作業療法を牽引されている先生方と出会い、多岐に渡って用いられている作業療法に魅了され、もっと知りたい!知ってほしい!と思うようになりました。

私は作業療法という学問を「ひとを多角的に知り、生活上の不便さを減らす方法を思慮し、導くための手段の引き出し」と考えています。対象の方が病や障害とともに「自分らしい生活」を送れるよう私にできることを見つけ、寄り添っていき、そんな作業療法士をめざして学び続けていきます。

創薬の革新、育薬の探求、そして医療と社会への貢献

薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

薬科学科：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、主体的に知識を広げ、深く探求し、創造するための素質と豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心、探求心、そして行動力を持ち続けられる人材が求められます。

薬学部への誘い

薬は、人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創製し、適正に使用するための学問を行

う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、物理系、生物系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和14年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野などの研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学部では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者・技術者の養

成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。

また大学院では、4年制学部卒業者に向けた薬学専攻と医薬創成情報科学専攻の2つの専攻と、6年制学部卒業者に向けた薬学専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。

さらに、教育・研究の施設・環境の充実にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省からの創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部にご様を招待します。

薬学部の教育

●創薬科学研究者と高度な医療を支える薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学です。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を進展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しています。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は創薬科学研究者・技術者の養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を支える薬剤師、医療薬学研究者・技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科で構成されています。

●1~2回生(薬科学科、薬学科共通)：全学共通科目を中心にした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からな

ております。さらに、専門基礎教育科目として「薬の世界」入門、健康・生命科学入門、基礎物理化学、基礎有機化学なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として外国文献研究を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

●3~4回生(薬科学科)：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

●3~6回生(薬学科)：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を

履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学ワークショップを行い、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4回生後期から特別実習が行われます。特別実習は6回生まで行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で5ヶ月間の実務実習を行います。



学部カリキュラム

	薬学共用試験				薬剤師国家試験					
	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	学部5年	学部6年	博士(4年制)			
薬学科(6年制)	全学共通科目 早期体験学習	専門科目 全学共通科目	専門科目 専門実習	特別実習 専門科目 事前学習	特別実習 事前学習 病院・薬局実務実習	特別実習 アドバンス医療系 講義・演習	1年	2年	3年	4年
薬科学科(4年制)	全学共通科目	専門科目 全学共通科目	専門科目 専門実習	特別実習 専門科目	修士1年	修士2年	博士後期			
							1年	2年	3年	





薬学部のホームページ <http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 薬学部教務掛 Tel.075-753-4514

▲薬学専門実習風景

学科紹介

薬科学科

医薬品の設計と合成そして生体分子との相互作用に関わる諸問題を、構造と機能ならびに作用と動態などの側面から研究する総合科学として、薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には研究室に配属され最先端の研究に触れる特別実習を行います。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うために、大学院(修士課程・博士後期課程)に進学します。

研究室紹介

薬科学専攻

●薬品合成化学：高須 清誠 教授

- 1) 生理活性天然化合物の合成
- 2) 高次分子変換のための実践的方法論の開拓
- 3) 活性種の特性を活かした高機能基選択的な変換反応の開拓
- 4) 生体内で特異機能を発現する人工低分子の設計と開発

●薬品分子化学：竹本 佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

●薬品資源学：伊藤 美千穂 准教授

- 1) 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドの合成機構の解明
- 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 4) 吸入投与による精油の生薬薬理学的研究

●薬品機能解析学：松崎 勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

●構造生物学：加藤 博章 教授

- 1) ATP Binding Cassetteトランスポーターの構造薬理学
- 2) X線自由電子レーザーを用いたタンパク質結晶学
- 3) X線結晶構造解析による生物時計の構造と機能の解明

●製剤機能解析学：石濱 泰 教授

- 1) プロテオミクス新規計測技術の開発
- 2) ヒトプロテオーム一斉定量分析に基づく細胞機能解析
- 3) 細胞内リン酸化ネットワークの解明
- 4) 微量組織試料の大規模定量化解析と臨床プロテオミクスへの展開
- 5) プロテオミクス技術を用いた分子標的創薬に関する研究

●精密有機合成化学：川端 猛夫 教授

- 1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生理活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

●生体分子認識学：竹島 浩 教授

- 1) 小胞体Ca²⁺シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の機能制御と情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

●遺伝子薬学：三宅 歩 講師

- 1) 細胞増殖因子(FGF)の脂肪組織、脳形成などにおける役割の解明
- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成、組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

●生理活性制御学：井垣 達史 教授

- 1) 細胞融合の分子機構に関する研究
- 2) 細胞間コミュニケーションを介した組織成長制御機構に関する研究
- 3) がんの発生・進展機構に関する研究

薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として、薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。1年次には早期体験学習が実施され、4～6年次には特別実習、病院実習、調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが、さらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する学生は大学院(博士課程)に進学します。

●生体情報制御学：中山 和久 教授

- 1) 低分子量GTPaseによる細胞内タンパク質輸送の調節機構
- 2) 纖毛内のタンパク質輸送と纖毛形成の調節機構
- 3) 細胞内タンパク質輸送による多様な細胞機能の調節機構
- 4) 生体膜の非対称性の制御による細胞機能の調節機構

●神経機能制御学：根岸 学 教授

- 1) 細胞形態及び細胞運動におけるRhoファミリー低分子量G蛋白質の機能の研究
- 2) 細胞形態及び細胞運動におけるRasファミリー低分子量G蛋白質の機能の研究
- 3) 神経軸索ガイダンス分子のシグナル伝達機構の研究

●生体機能化学：二木 史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) ペプチドを基盤とするバイオ高分子の細胞内導入法の開発とその原理
- 3) 生体膜の構造変化を誘起する蛋白質・ペプチドの機能設計
- 4) 人工転写調節蛋白質の設計と遺伝子発現制御
- 5) 膜蛋白質の会合制御とシグナル調節

薬学専攻

●薬品動態制御学：橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
- 3) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 4) ケモインフォマティクス技術に基づく薬物動態特性のインシリコ予測
- 5) 薬物動態と生体応答の機能連関に関するシステム薬理的解析

●薬品作用解析学：久米 利明 准教授

- 1) 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 2) 疾患予防に資する食品由来細胞保護活性物質の探索研究
- 3) ニューロン生存と再生を制御する細胞内機能分子に関する研究
- 4) 胎仔血清由来する神経保護物質セロフェンド酸の作用機序の解析
- 5) 新規脳疾患動物モデルの作出のライブイメージングを用いたモデル動物の評価

●臨床薬学教育：

- 1) 医薬品の適正使用に関する教育・研究
- 2) 薬物動態と薬物の速度論的解析に基づく個別化投与設計に関する研究

●病態機能解析学：佐治 英郎 教授

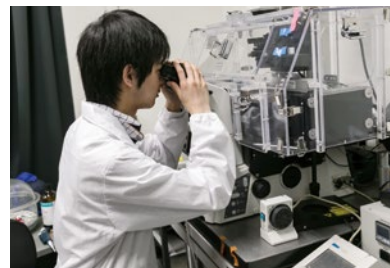
- 1) 脳疾患、心疾患、がん、糖尿病などでの生体機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発とそれによる病態及び薬物作用の解明に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的部位的移行、選択的活性化をおこなう機能性画像診断・治療薬剤の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

●病態情報薬学：高倉 喜信 教授

- 1) 遺伝子治療・DNAワクチン療法を目的とした核酸医薬品開発
- 2) 核酸ナノデバイス・ハイドロゲルの開発
- 3) Exosomeを利用した疾患治療システムの開発
- 4) 高機能細胞治療システムの開発

●生体機能解析学：金子 周司 教授

- 1) TRPチャンネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする生体機能解析、病因論、分子機構、薬効解析、リガンド探索、ゲノム科学に関する研究
- 2) 神経・グリア・免疫細胞連関の病態および薬効への寄与に関する研究
- 3) 痛みの発生制御基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 4) 薬物有害事象や薬物依存の分子および細胞メカニズムに関する研究



●医療薬剤学：松原 和夫 教授

- 1) 医薬品の副作用・毒性の発現機序および対策に関する研究
- 2) 分子標的型抗がん剤の薬効・副作用と血中濃度の相関に関する研究
- 3) 薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析
- 4) 医薬品の有害反応に関する疫学的調査研究
- 5) 中枢および末梢神経障害の病態と治療法に関する研究
- 6) 疼痛の病態生理と鎮痛薬、緩和医療に関する研究

医薬創成情報科学専攻

●薬理ゲノミクス(ゲノム創薬科学)：平澤 明准 教授

- 1) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 2) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 3) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

●ケモゲノミクス(薬品有機製造学)：大野 浩章 教授

- 1) 複雑な化学構造を有する生物活性化合物の合成と創薬展開
- 2) 複雑な化学構造を一例に構築するための新反応の開発
- 3) 新しいペプチド・ペプチドミメティクスの化学合成法の開発と応用
- 4) Gタンパク共役型受容体リガンド・プローブの創製
- 5) 化合物ライブラリーの構築と応用

●システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 再生、老化における分子時計の細胞内時間ネットワーク機構を解明する。
- 2) 分子時計の異常による慢性疾患(高血圧、発癌、神経変性疾患)の発症機構を解明し、時間を基にした新しい病気の理解、その治療法を開発する。
- 3) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。
- 4) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

●システムケモセラピー(制御分子学)：掛谷 秀昭 教授

- 1) 多因子疾患(癌、心疾患、感染症、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等)に対する次世代化学療法の開発を指向した先端のケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメタシナケミストリー研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究(コンビナトリアル合成生成研究等)

●統合ゲノミクス：緒方 博之 教授

- 1) ウイルスのゲノム解析
- 2) 微生物群集と環境の相互作用
- 3) 創薬と環境保全への応用を目指した化学・ゲノム・医薬知識の統合

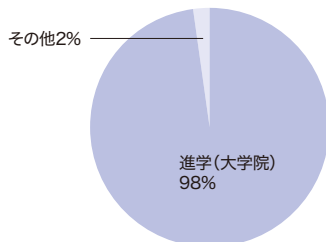
●分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与とデータからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムズバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解

卒業後の進路

薬科学科：9割以上が大学院へ進学します。修士課程を修了した学生の3割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国公立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では7割が製薬会社に就職しています。

4年制 薬科学科 2015年度実績

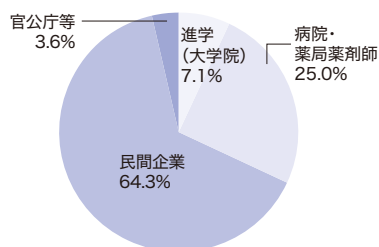


就職先の例 (修士課程修了者)

塩野義製薬(株)／中外製薬(株)／日本新薬(株)／協和発酵キリン(株)／大日本住友製薬(株)など

薬学科：卒業生のうち、約1割が博士課程に進学します。卒業生の就職先には、医療機関、薬局、企業、国公立研究機関などがあり、職種も薬剤師、研究職など様々です。

6年制 薬学科 2015年度実績



就職先の例

京都大学医学部附属病院／帝京大学医学部附属病院／田辺三菱製薬(株)／アステラス製薬(株)／日本たばこ産業(株)／近畿厚生局など

薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6年制の薬学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に出願することができます。また、平成29年度入学者までは、4年制の薬科学科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに薬科学科では、教員職員免許状(中学校一種(理科)・高等学校一種(理科))の資格が取得できます。

Message



卒業生メッセージ

2013年 薬科学科卒業
2015年 薬学研究科修士課程修了
アステラス製薬株式会社 勤務
(旭丘高等学校(愛知県)出身)

近藤 小太郎 さん

自由な学風のもとで羽ばたこう

私は、子供の頃から医療に関わる仕事に就きたいと考えていました。そして、多くの人々の命を救うことができる新たな医薬品の研究開発に興味を持ち、薬学部を志望しました。

京都大学薬学部には充実した研究環境が整っており、熱意あふれる先生方からの指導を通じて薬学の知識や研究者に必要な仮説検証力を培うことができます。そして何よりも、「自由な学風」という風土のもと夢に向かって行動する魅力的な学生と数多く出会い、常に周囲から刺激を受けて成長することができます。

現在、私は企業の研究員として新薬の研究開発に携わっていますが、大学で得られた知識や経験が仕事にも活かしていると日々実感しています。みなさんも、ぜひ京都大学薬学部から自らの未来に向かって羽ばたいていただきたいと思います。



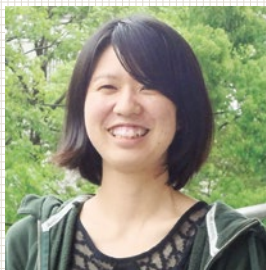
卒業生メッセージ

2011年 薬科学科卒業
2013年 薬学研究科修士課程修了
薬学研究科博士後期課程
(膳所高等学校(滋賀県)出身)

日比野 絵美 さん

一流の研究者を目指して

私は高校時代に研究者になりたいという夢を持ち、分子生物学や有機化学、薬理学といった、他学部とは異なり多岐に渡る分野を学べる環境が整っている薬学部を志望しました。大学在籍時は、薬学部で活躍している先生の研究の話や多くの先生の研究の話を聞ける機会も多く、基礎知識や研究への姿勢を学ぶことができました。また研究室に入ってから、問題解決能力や考察力など、机上での勉強とは全く異なった思考力を身につけることができました。大学院は博士課程まで進学し、自身の研究だけでなく周りの人との議論を重ねることによって、さらに自分の価値観や今後の研究の方向性を定めることができました。今後も自分の信念のもと、研究活動を続けていきたいと思っています。京都大学では周囲からの刺激も多く、自分を成長させることができるはずです。



在学生メッセージ

薬学科6年生
(北野高等学校(大阪府)出身)

松井 優果 さん

薬学科での貴重な体験

私が薬学部を選んだのは、理系の学部の中でも様々なことを学ぶことができると思ったからです。さらに薬学部を目指した理由は、医療現場で薬がどのように使用されているのかを学びたいと思ったからです。

大学ではハイレベルな人が多数いて、日々刺激を受けています。私は、研究室で試行錯誤しながら、数多くの実験をこなすことにより研究の奥深さを知ることができました。そして、京大病院における実習では最先端の薬剤師業務に携わることができて、視野が広がりました。今後はこの経験を活かし、物事を多角的に捉えられるようになっていきたいと考えています。

京都大学は自主性を重んじるので、自分の夢を叶える環境が整っています。みなさんもぜひ私たちと一緒に京都大学で学びませんか。



在学生メッセージ

薬科学科4年生
(東大寺学園高等学校(奈良県)出身)

東 勇輔 さん

薬を創るということ

創薬というのは夢があると思いませんか。私は、薬と、薬に繋がる科学を学び、人々を助ける仕事をしたいと思い、京都大学薬学部に入學しました。

京都大学では、1～3年次では講義や学生実習を通じて薬学の基礎知識を学びます。4年次には各分野の研究室に配属され、実際に研究を行っていくにあたって必要となる技術や知識、そして研究への姿勢を身に付けていきます。私の所属している薬科学科の学生の多くは、その後大学院に進学することを志望します。

私は現在、薬品機能解析分野に所属しており、創薬ターゲット分子が多く含まれていると考えられている膜タンパク質の相互作用についての研究を、今後進めていくこととなります。

薬を創るということは、多くの人々を救うということでもあります。そんな夢のある世界を皆さんも目指してみませんか。

自由な発想と独創性に基づく社会貢献

工学部が望む学生像

- 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- 既存概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の永続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとし

た基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30(1897)年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3(1914)年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8(1919)年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部に発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開学し、現在では工学研究科のほとんどの専攻が移転を終えています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、第4学年の特別研究(卒業研究)を主に桂キャンパスで行います。



▲桂キャンパスの様子

工学部の教育

●「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既存概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るといことに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視すること」につながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

●第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、国際高等教育院を主体として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

●高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年に

なると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

●第4学年では特別研究(卒業研究)に取組む

第4学年では、特別研究(卒業研究)を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を修得し、学士論文を完成すれば、学士(工学)の学位を取得することができます。

●カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見直し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。



▲研究室におけるロボット制御の実験の様子



▲情報学科数理工学コース「システム工学実験」の様子



工学部のホームページ <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 工学部教務掛 Tel.075-753-5039

▲情報学科計算機科学コース「マイクロコンピュータの作成実験」の様子

学科紹介

地球工学科

地球工学(Global Engineering)は、文明に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ(社会基盤施設)の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

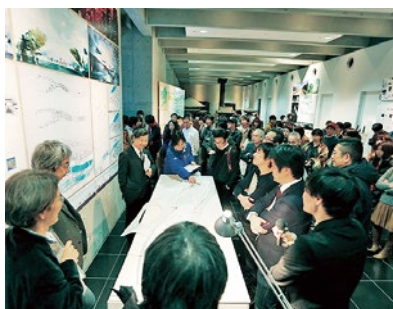
2011年度より、国際的技術者の養成を目的とし、全授業を英語で受講できる国際コースを開設しています。



▲浄水処理実験の様子

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も、建築設計及び施工に従事する建築家、建築構造技術者及び設備環境技術者、行政的な指導・監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。



▲設計演習講評会の様子

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組み新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、宇宙基礎工学、原子核工学、エネルギー応用工学の5つのコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所及び工学研究科附属量子理工学教育センターなどの協力のもとに、学際的の広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。



▲クリーンルームにおける微細加工実験の様子

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題(たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など)において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。



▲第2学年での実習風景

情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の様々な専門分野に関係する数理モデルの解析、または、複雑システムから得られた膨大な情報のかたまりであるビッグデータの分析が必要となります。そのためには、システムの機能とそこに流れる「情報」の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では数学や物理を基礎とした数理的思考で高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、第1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。



▲宿泊研修に参加した96名の情報学科1回生

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的として教育を行います。第1学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と語学や人文社会科目、第2学年前期からは工業化学科としての専門基礎科目により、幅広い教養が身につく教育を行います。第2学年後期からは、創成化学・工業基礎化学・化学プロセス工学の3コースに分かれて、専門教育を進めます。第4学年では各コースの研究室における卒業研究を通じ、高度な知識を有する研究者・技術者を育成します。



▲工業化学科での最先端化学の研究



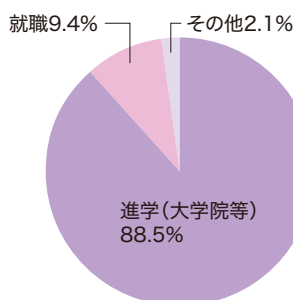
卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上(平成27年度約89%)の者が大学院修士課程等へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。

工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。(また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。)

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2013年 工業化学科卒業
2015年 工学研究科
化学工学専攻修士課程修了
JFE スチール株式会社 勤務
(東大寺学園高等学校(奈良県)出身)

古賀 超 さん

可能性を秘めた学生生活

私は特に何かをしたいわけではなく、学力に見合った大学ということで京都大学工学部工業化学科に入学しました。今考えるとこの選択は正解だったと思います。京都大学の魅力は大学生活の自由度が高いところにあると思います。京都大学には約22800人も学生が在籍していますが、勉強、部活動やサークル、アルバイト、海外留学等、学生が各々やりたいことを見つけ、多種多様な学生生活を送っています。皆それぞれ違う考え方をもち、その様々な価値観に触れることで自分自身も成長することができます。

私も勉強はもちろん、サークル活動やアルバイトに打ち込み、よく遊び、多くの人に触れて充実した学生生活を送ることができました。その経験は社会人になった今でも十二分に役立っています。

皆さんも是非、京都大学で充実した学生生活を送ってください。



卒業生メッセージ

2013年 物理工学科卒業
2015年 工学研究科
材料工学専攻修士課程修了
株式会社GSユアサ 勤務
(小野高等学校(兵庫県)出身)

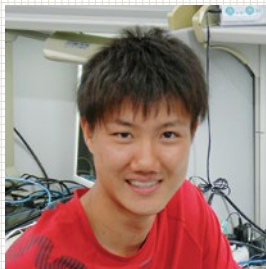
杉浦 慎太郎 さん

自分の興味を追究できる環境

京都大学の素晴らしいところは、追究する姿勢が尊重されているところです。特に、私の所属していた物理工学科は、幅広い工学分野の学生が集まっていたので、いろんな視点から考えてみる大切さを学びました。

例えば、話題になっている科学ニュースについて、お互いのわからないところを話し合ったり、自分の分野へ応用できることを考えたりしました。また、何気ない会話から疑問が生まれ、夜通し議論した結果、「これは一から勉強を始めるしかない」と結論に至り、一緒に専門書を買って書店へ走ったりすることもありました。

思えば自分の興味に貪欲だった学生生活だったと思いますが、それは、一緒に考えてくれる友人、先輩、先生方に恵まれていたからこそだと思います。そのような素晴らしい環境で、果てしない知識の海の航海へ出掛けるような学生生活を送られることは、皆さんにとっても、将来の思考の在り方を決定付けるものになるとと思います。



在学生メッセージ

電気電子工学科4回生
(西大和学園高等学校(奈良県)出身)

岩端 祐介 さん

意義のある四年間

丁度僕が高校生の頃、世間でスマートフォンが普及し始めたのをきっかけに電子デバイスや情報通信技術といったものに興味を惹かれ、電気電子工学科を選びました。

電気電子工学科では1、2回生のうちから数学や物理等の基礎科目だけでなく電気、電子、情報分野における専門科目を幅広く学ぶことができ、将来研究したいものを決めるのに役立ちました。4回生となった今では研究室に配属され量子物性分野について更に深く学びつつ、学業以外では体育会男子ラクロス部に所属し日々練習に励むことで心身を鍛えています。

「自由な学風」で知られる京都大学において、主体的に行動しなければ、豊かな自由を持って余り少ない四年間を過ごすことになりかねません。しかし様々なことに挑戦し自分の可能性を追求すれば、密度の濃い四年間を過ごすことのできる環境が確かにここにはあります。

皆さんも京都大学で充実した大学生活をおくってみませんか?



在学生メッセージ

建築学科4回生
(岐阜高等学校(岐阜県)出身)

村瀬 詩織 さん

「自由」が可能にしてくれること

工学とは、人の役に立ってそこで初めて実を結ぶものだと私は思っています。その中でも、建築は人間生活と密接に結びつき、学術的な専門知識を扱う理系的な要素と同時に、柔軟な感性や発想力を養ったり、空間の意味を読み取ったり、といった文系的な要素も持つ独特な分野であるといえます。

京都大学の最大の魅力である「自由」が意味するのは、誰かに強制されるのではなく、自らが選択し興味を持ったことに挑戦できる、いわば贅沢な「可能性」です。もちろん勉強に限らず、部活やアルバイト、そして京都ならではの経験など、学生生活にまたとない彩りを加えることもできます。

自由の使い方は自分次第。この自由を足場に、最前線で活躍される先生方のもと、個性豊かな同級生とともに、高水準の研究環境で、可能性にあふれた大学生活を送ってみませんか。

生命・食料・環境

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々な、かつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った、多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育に必要な学力を有する人材を求めています。

農学部への誘い

衣食住は人間の生活にとって必要不可欠です。食物はもとより、私たちの身の回りの多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを

持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するために、農学はますます重要な使命を担っています。

農学と聞くと古くさくて何となく現代的でないイメージを持つかもしれません。しかし、今や農学はバイオテクノロジーやロボット工学など最先端の技術を駆使しながら、品種改良や食品の機能の向上、農業生産の効率化をめざす学問です。より環境にやさしい農業をおこなうために、人工衛星などを利用したリモートセンシングやIT技術も積極的に取り入れられています。また、自然条件のみならず、地域の経済的・社会的・文化的諸条件を総合的に見わたしながら、今後人類がどのようにして持続的に発展を続けていくべきか考えていくことも、農学の重要な課題です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした、生命系の総合科学へと発展しているのです。

京都大学農学部は1923年、農林水産業の技術向上に貢献すべく、農作園芸学科(農学科)、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農林工学科、農林経済学科の6学科が設置

されてスタートしました。それ以来、さまざまな社会の変化とその要請に対応しながら、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基盤とし、「生命・食料・環境」をキーワードとする幅広い教育と研究を行う体制を作り上げてきました。創設以来、1万9千名に及び卒業生を社会に送り出し、食料の生産・加工技術や環境の保全・管理技術の発展に大きく貢献しています。

現在、わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。一方、地球上では多くの人々が飢えに苦しみに瀕しています。食料は人類が快適で平和に暮らしていく上で欠かすことのできないものです。しかし、地球温暖化や砂漠化などの環境問題が深刻になりつつある中で、これからの人間の活動には、なおいっそうの自然との調和が求められています。食料の生産も例外ではありません。できるだけ環境に負担をかけない方法や技術を見出していかねばならないのです。

この大きな課題に、皆さんもぜひチャレンジしてください。

農学部の教育

●専門知識の習得と広い視野の育成：6学科を準備

農学部は、農学とそれに関連する知識とともに高い倫理性を身につけた社会人を育てることを目的としています。さらにそのような人材に(1)人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想する能力(2)農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与する能力(3)生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学の研究を理解する能力を備えさせることをめざしています。

この目的を実現するため、農学部では、資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、食料・環境経済学科、森林科学科、食品生物科学科の6学科を設置し、本学の最大の特徴である自由の学風を尊重しながら、ものごとを広い視野から総合的に判断することができる人材の育成に取り組んでいます。

人間社会は、地球上の動植物や微生物などさまざまな生物と持続的に共存しながら、それらを利用しています。生物を資源として利用しようとする場合、生物が生命を維持している仕組みや、食物連鎖や物質循環をおしてどのような生態系を形成しているのかについての、広く深い理解が欠かせません。また、人間の活動をより自然と調和のとれたものに改善していくためには、工学的な技術や社会科学の手法を用いた分析も必要になります。それぞれの学科で求められる専門知識の基礎をしっかりと身につけながら、関連する分野にも積極的に興味をもって視野を広げることが求められます。

●どのように学びはじめるのか：第1年次

農学部では入学時に学ぶ学科が決まり、それぞれの学科で4年間の一貫教育がおこなわ

れます。農学では生物学、化学、物理学などの自然科学に加えて、社会科学の手法も用いられますが、各学科のカリキュラム(授業計画)には、これらの教養科目と専門科目がクサビ状に組み合わせられて構成されています。このような学業とクラブやサークル活動などをどのように組み合わせるかは、それぞれの新入生がまず頭を悩ます難問です。農学部では、そういった際に、クラス担任など、相談できる教員を用意しています。

第1学年で大切なことは、学部・学科にとらわれない幅広い学識を養うことです。そこで、1年間は全学共通科目を重点的に学びます。例えば、自然科学、人文・社会科学、語学などの基礎教養科目を履修します。保健・体育科目などへの参加もできますし、留学生とのふれあひも多い「国際教育科目」を加えるなどして自分のカリキュラムを作ります。全学共通科目の履修は、第2学年(特に夏までの前期期間)にかけても続きますが、参考になる書籍や論文などは吉田キャンパスの附属図書館や電子ジャーナルで入手でき、また総合博物館も貴重な資料を提供してくれます。

●どのように学びを高めるのか：第2・3年次

第2学年の後期(秋から冬)になると、専門基礎科目の割合も増えて、いよいよ第3学年からの本格的な専門教育に備えます。農学部の専門科目では、講義に加え、実験、実習、ゼミナールが重視され各学科において必要とされる実験技術・手法に関する密度の高い教育が実施されます。このような専門教育が第2学年から始まるのです。農学部図書室や附属農場、附属牧場、演習林、舞鶴水産実験所など、関連教育研究施設との繋がりも強くなってきます。農学部は京都大学の中でも派遣留学生(京都大学から外国へ留学する学生)の数が多

い、国際交流活動の最も盛んな学部の1つです。毎年、数多くの学生が、将来への抱負と希望をもって、派遣留学に挑戦します。

第3学年は専門科目の受講に終始します。研究者への第1歩としても重要なプロセスですが、同時に研究分野(研究室)への分属という大きな選択をする時期です。将来の方向も考えて分野訪問などで情報を収集しながら、体系だった講義の選択が求められます。農学部の各学科では、それぞれに工夫をこらしたシステムで各分野への分属を決定します。

●どのように学びを結ぶのか：第4年次

第4学年では、研究分野に分かれて課題研究(卒業研究)に1年間取り組み、卒業論文を仕上げます。教員の指導や助言を受けながら、大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む、研究者としての最初のステップです。従って、この1年間は自身の研究、研究分野のゼミナール、そして進学希望者は大学院入学試験の受験準備に没頭する生活を送ることになります。以上より、所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業します。さらに研究を深めようと志す多くの学生は大学院へ進学します。

●どこで学ぶのか：自然に抱かれて

農学部の教育の大部分は、京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部総合館で行われます。一部は、総合館の北に位置する農学・生命科学研究棟や、宇治キャンパス(京都府宇治市)、農学部附属の農場(京都府木津川市)・牧場(京都府京丹波町)でも行われます。いずれの施設も学習環境は整備され、自然環境や文化的景観にも囲まれた立地で、皆さんに励ましと優しさを与えてくれます。





▼質量分析計



▼核磁気共鳴装置



▼食品生物科学科の実験風景

農学部のホームページ <http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>
入学についてのお問い合わせ 農学部教務掛 Tel.075-753-6012

▲吉田キャンパス北部構内 農学部総合館(上)
宇治キャンパス 農学研究科棟(下)

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ策を探るとともに、有用物質・遺伝子の有効利用やこれまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象に基礎から応用に至るまでの研究を多面的に行っています。

作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学



▲イネの開花時期が熟期を決める

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する(バイオサイエンス)、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する(バイオテクノロジー)ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学、植物分子生物学



▲化学の視点から生命現象を解き明かす

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、アセットマネジメント(農業水利施設の効率的な維持管理と更新)による生産環境の充実、生態系と調和した大気・水・土壌環境の実現、農村計画と住民主体による地域づくり、持続的食料生産のためのエネルギーの変換、利用、最小の入力で最大の効率を得る植物工場や精密農業、そのためのロボット化および農畜水産物の生物センシングなど、様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、生物センシング工学



▲人と自然が調和した都市近郊農村(神戸市西区)

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業食料組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林経済政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論



▲持続可能な発展が課題となる中国華中農村

森林科学科

森林は、樹木をはじめとする動植物や菌類からなる生態系を形成しており、生活に必要な木材や紙などの木質資源を供給する一方、災害を防ぎ、気候を維持するなど環境保全機能を有しています。森林科学科では、自然を保護し豊かな社会を作るため、森林とそのバイオマス資源を研究対象として、生態系、生物多様性、管理と生産、緑地工学、地球環境化学、材料工学、有機化学、分子生物学、細胞生物学、バイオマスエネルギー、社会科学的アプローチなど、学生一人ひとりの多様な興味に合わせて、オリジナルティ豊かな教育を受けることができます。

森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生態学、森林水文学、森林生化学、森林育成学、森林情報学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学



▲北山実習・森の仕組みを学ぶ(京都・北山にて)

食品生物科学科

本学科は、新しい食品の開発や生産に関わる研究者や技術者を育成することを目的とし、長い歴史をもつ旧食品工学科と旧食糧科学研究所を母体として、2001年に設立されました。食に焦点をあてた化学系の学科として、国内外で高い評価を得ています。食品生物科学科は下記の9分野からなり、(1)食に関する研究を通じて生物・生命を理解すること、(2)人間にとってより良い食品を創製すること、(3)食品の効率的な生産に寄与する技術を開発することを目的として、教育・研究を行っています。

酵素化学、食環境学、生命有機化学、栄養化学、食品分子機能学、食品生理機能学、農産製造学、生物機能変換学、生体情報応答学



▲多様なトマトの品種と機能性成分の分子構造

卒業後の進路

卒業生の8割弱程度が大学院に進学しています。
就職先については、公務員、公的研究機関の研究員、化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・コンピュータ関係など、幅広い分野にわたり、多方面で活躍しています。

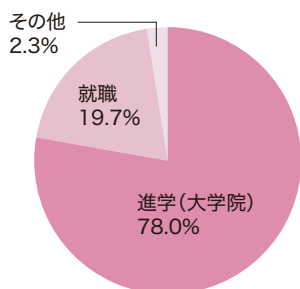
就職先の例

農林水産省／京都府／大阪府／
水産総合研究センター／伊藤忠商事(株)／
(株)資生堂／双日(株)／(株)博報堂／
サントリーホールディングス(株)／東映(株)／
住友林業(株)／日本航空(株)／北海道電力(株)／
富士通(株)／(株)三井住友銀行／
セイコーホールディングス(株)／キリン(株)

農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、測量士補の資格取得の教育課程、樹木医補の資格認定のための教育課程を設けているなど、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

2015年度実績



Message



卒業生メッセージ

2011年 資源生物科学科卒業
2013年 修士課程地域環境科学専攻修士
住友化学株式会社
農業関連事業研究所
(土佐高等学校(高知県)出身)

杉本 直也 さん

魅せられて

京都大学の農学部では、動植物の研究に限らず、経済や工学に至るまで、多様な研究領域がカバーされています。何を研究テーマとするかは、学生次第。どの分野を選んでも、その分野で世界をリードする教授陣の指導のもと、とことん研究に没頭することができます。

私の場合は、農業害虫であるハダニの殺虫剤抵抗性についての研究に取り組みました。吹けば飛ぶようなちっぽけな虫が、本来の致死量を遥かに超える農業にも耐えるよう進化する、その遅い生き様に驚愕し、魅せられたのがきっかけでした。

こうして虫に魅せられた私は、現在は農業の研究開発の仕事に従事しています。世界の食糧生産に貢献し、人類と害虫がより良い関係を築けるよう、日々模索しています。

農学部の多様な研究領域の中には、あなたを魅了するものが、きっとあるはずです。



卒業生メッセージ

2013年 森林科学科卒業
2015年 修士課程森林科学専攻修士
住友林業株式会社 山林部 勤務
(桜蔭高等学校(東京都)出身)

新野 彬子 さん

自由の校風の木の下で、豊かな学びの日々を

樹木や草花と慣れ親しんで幼少期を過ごした私は、「庭園都市」と謳われる山紫水明のまち京都でランドスケープデザインを学びたいと思い、京都大学に入学しました。

学部では市街地の小規模緑地が都市生活者の行動や心理に与える影響について研究し、大学院では京都市内の伝統的な住宅庭園の分布の変遷と質の評価をテーマに研究に取り組みました。現在も森林や環境と深く関わる仕事に就いていますが、自分自身の興味や問題意識から自由に発想し、試行錯誤しながらも研究に打ち込んだ日々が、今の自分の礎となっています。今後は、6年間の大学生活で培った自由な発想力や探究心を胸に、「自然の力」で人の暮らしをもっと豊かにする仕掛けづくりに挑戦していきたいです。



在学生メッセージ

応用生命科学科 4回生
(京都教育大学附属高等学校(京都府)出身)

清水 寿朗 さん

本物の科学に出会う場所

幼いころから、昆虫などの身近な生物が好きでした。そのような経験から化学を通して生物を理解するという応用生命科学科に強く惹かれて、農学部を志望しました。この学科では主に生化学や有機化学、物理化学を学ぶのですが、ただ講義を受け、教科書を読むだけではありません。3回生で、それらすべての分野の学生実験を行います。担当してくださる各研究室の先生方は個性豊かで、私たちに本物の科学を教えてくださいました。4回生となった今は、植物栄養学の研究室に所属し、忙しいながらも充実した毎日を過ごしています。

自分自身、まだまだ科学を学ぶ者としてスタートラインに立ったばかりで、偉そうなことは言えませんが、この学科にきたことは間違いはなかったと、自信をもって言うことができます。皆さんもぜひ、本物の科学を学びにきませんか？



在学生メッセージ

食料・環境経済学科 4回生
(洛北高等学校(京都府)出身)

伊藤 千恵 さん

理論の枠には収まりきらない農業の奥深さ

「農業の多面的機能」という言葉があります。これは、農業が果たす市場には反映されにくい様々な役割のことを指します。農・食・環境に関わる研究では、この「見えない価値」を無視することはできません。

私がこの学科を志望したのは、農業経済の理系・文系の垣根を越えたアプローチ方法に惹かれたからです。入学後は、講義を通して経済理論等を学ぶことは勿論、実際に国内や海外の農村を訪れる機会があり、理論の枠には収まりきらない農業の奥深さを実感しました。また他学科の専門科目を履修することも可能で、多様な学問領域に触れることにより幅広い視点を身につけられました。豊富な文献が揃う図書室にもいつも助けられています。

このように、学びたいと願う人には無限のチャンスを与えてくれるここ京都大学で、皆さんも学問を追求してみませんか。



Student voices

Theme 1 京都大学の魅力って？

京大生たちに「京都大学の魅力」を聞いてみました。
実際に生活する彼らならではの生の声を聞いてみてください。



医学部人間健康科学科3回生

石原 奈子 [姫路東高等学校(兵庫県)出身]

京都大学には全国各地から様々な個性を持った人が集まります。あなたも自分の個性に磨きをかけて、他の人に負けない輝きを放ちましょう。



農学部2回生

西村 峻輔 [高田高等学校(三重県)出身]

変人? 奇人? なぜか紙一重の天才肌の人たちが京都大学にはたくさん集まります。私もそう思う人、ぜひ京都大学に来てください。



教育学部1回生

中尾 勇輝 [鳥取西高等学校(鳥取県)出身]

高校生の時とはまったく違うキャンパスライフ。授業、サークル、アルバイト...ざっと新しい自分が見つかるはずです。



法学部3回生

加藤 史織 [明和高等学校(愛知県)出身]

いろいろな分野で最先端の研究をしている研究者が、あなたの先生になります。テレビで見た、あの有名な先生の授業が受けられるかも?!



理学部3回生

田中 雄太 [高崎高等学校(群馬県)出身]

京都は世界でも有名な観光の街ですが、学生の街、歴史と伝統の街...いろいろな独特な顔を持っています。住んでみて初めて分かる、京都ならではの空気を感じに来てください。



理学部3回生

宮内 佑典 [大阪星光学院高等学校(大阪府)出身]

知的好奇心を刺激する講義や研究、楽しいサークルや部活動など、多くの分野と仲間に出会えるのが京都大学です。今までの自分になかった新たな可能性がきっと広がります。



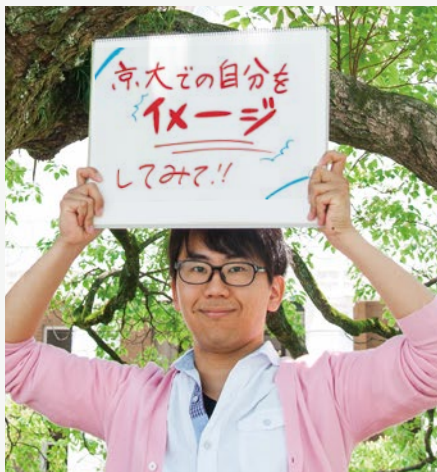
総合人間学部2回生

小野 奈緒子 [大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎(大阪府)出身]

「自由の学風」で有名な京都大学。やりたいことが全部できるかどうかはあなた次第ですが、京都大学でしかできない経験は、これからの人生できっと役に立つはずですよ。

Theme 2 受験生へのメッセージ

現役京大生が実際に経験してきた受験への秘訣を聞いてみました。役立つ勉強法が見つかるかも！？



文学部2回生

川又 優輝 [栃木高等学校(栃木県)出身]

苦しい時は、緑豊かで伝統あるキャンパスの中で、大学生活を楽しむ自分をイメージしてみましょう。想像が現実になるまで、あと少しです。



工学部3回生

柿中 晋治 [開智高等学校(埼玉県)出身]

不安を解消する特効薬は、人一倍努力することです。これまでの、そしてこれからの努力の積み重ねがあなたの糧となり、自信につながります。不安になったときは、今までの「努力」を思い出して！



医学部人間健康科学科2回生

二井 優花 [清風南海高等学校(大阪府)出身]

受験勉強中は苦しいこともたくさんあると思います。それでも、自分を信じて最後まで頑張りましょう。京大生としての未来がきっと待っています。



経済学部2回生

奥 翔太郎 [宮崎大宮高等学校(宮崎県)出身]

時には肩の力を抜いて、リラックスする時間も大事。あせらなくとも、毎日の地道な努力は自分の中に蓄積されていきます。気持ちを楽にして試験本番を迎えてください。



農学部3回生

松波 若奈 [岡崎高等学校(愛知県)出身]

どうしても嫌いな科目は後回しにしがちです。でも、嫌いだからこそしっかり取り組む！大きな壁を乗り越えた経験は、大学での学びやこれからの人生で、きっと役に立つはずです。



薬学部2回生

森川 知彦 [東筑紫学園高等学校(福岡県)出身]

「自分なんか…」と諦めず、キャンパスを友達と歩く自分を想像して、今はひたすら前向きに！努力が実を結び、入学したみなさん全員を京都大学は歓迎します！



工学部2回生

遠山 航輝 [芝高等学校(東京都)出身]

コツコツと早くから始める人や、追い込みが得意な人など、勉強方法はそれぞれですが、ゴール地点はみんな同じ。ゴール地点の自分を目標に、今やるべきことを考え、計画していきましょう。



文学部3回生

西村 有貴 [西大和学園高等学校(奈良県)出身]

今は自信がない人も、不安でたまらない人も、まだまだ大丈夫！不安は努力の源です。努力がいつの間にか自信に変わっていることに気付く日が、きっとくるはず。